

2022年度(第33回)新入社員の 会社生活調査

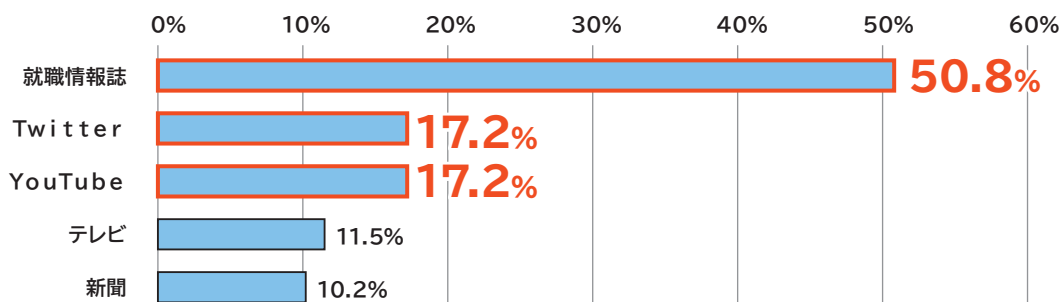


PICKUP DATA

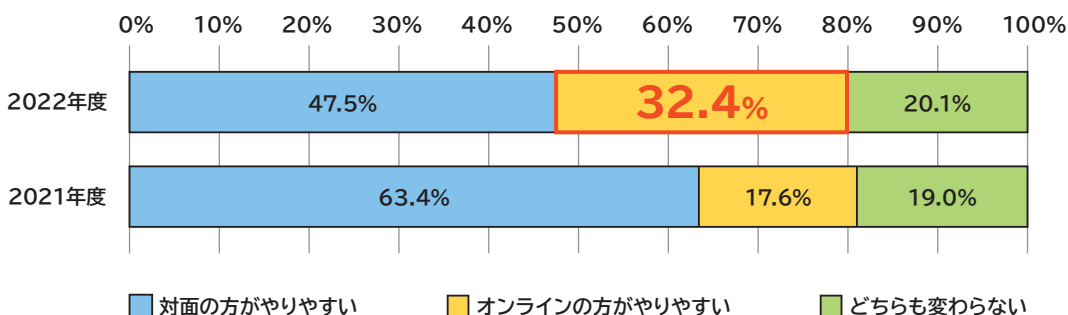
企業や
業界研究の
情報源

就職情報誌 **50.8%**
Twitter・YouTube ... 各**17.2%**

企業や業界研究の情報源TOP5



採用面接は“オンラインがやりやすい”が増加 **32.4%**



お問い合わせ先

学校法人産業能率大学 総合研究所 マーケティングセンター

〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15

電話: 03-5758-5117 Mail: sanno_souken@hj.sanno.ac.jp



目 次

調査概要	P.1
総 括	P.2
PICKUP DATA	P.3~P.9
データ集	P.10~P.31

学校法人産業能率大学 総合研究所（東京都世田谷区、以下 本学）は、新入社員の働く意欲や新社会人としての意識、将来の目標などに関するアンケートを実施し「2022年度 新入社員の会社生活調査」としてまとめました。

この「新入社員の会社生活調査」は、1990年度から継続して実施しており、本年度で33回目となります。調査は3月29日から4月19日までに、本学が開催した新入社員研修を受講した今年の新入社員を対象に実施し、244人から回答を得ています。

調査概要

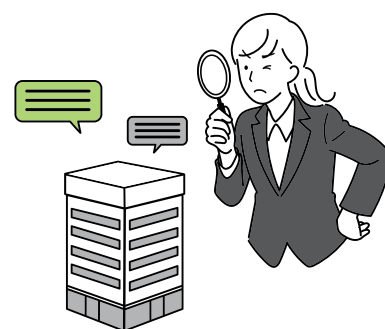
1. 調査対象	本学開催の新入社員研修の受講者		
2. 調査時期	2022年3月29日～4月19日		
3. 調査方法	研修受講時に案内しオンラインで回答		
4. 有効回答	244人（男性173人・70.9%/女性67人・27.5%/無回答4人・1.6%）		
5. 所属企業プロフィール	従業員数	100人未満	20人（ 8.2%）
		100人以上 500人未満	92人（37.7%）
		500人以上 1,000人未満	36人（14.8%）
		1,000人以上	96人（39.3%）
			244人

上場区分	上場企業	164人（67.2%）
	非上場企業	66人（27.1%）
	企業以外の法人・団体	14人（ 5.7%）
		244人

企 業 所 在 地	北海道	0人（ 0.0%）
	東 北	5人（ 2.1%）
	関 東	147人（60.2%）
	中 部	38人（15.6%）
	近 畿	40人（16.4%）
	中 国	1人（ 0.4%）
	四 国	0人（ 0.0%）
	九 州・沖 縄	13人（ 5.3%）
	244人	



ここ数年で就職活動の環境は大きく変わりましたが、Z世代のほぼ真ん中に位置する今年の新入社員は、どのようにして入社を決め、これから始まる社会人としての生活をどのように過ごしたいと考えているのでしょうか？



企業の評判調査や業界研究のための情報源を複数回答で訊いたところ、「就職情報誌」が50.8%で一番多く、定番となっていることが分かりました。2位は同率で「Twitter」と「YouTube」（各17.2%）となり、ソーシャルメディアの台頭が顕著になってきています。ソーシャルメディアは手軽に効率よく情報を入手するための入り口となっているものと思われます。マスメディアについては、「テレビ」（11.5%）、「新聞」（10.2%）、「ビジネス誌」（9.0%）という結果でした（問3）。

また、採用面接は対面とオンラインとではどちらがやりやすいかでは、昨年度17.6%だった「オンライン」が32.4%に増加しました。これは企業と就活生の双方でオンライン面接のノウハウが蓄積してきた結果といえそうです（問4）。

採用する企業が増えているテレワークについて、制度があれば利用したいかでは、「利用したい」と「どちらかといえば利用したい」を合わせた“利用したい”は85.2%と過去最高となり、効率性を重視する傾向にあるZ世代ならではの結果となりました（問12）。また、副業については、「利用したい」と「どちらかといえば利用したい」を合わせて82.8%が“利用したい”と回答し、同じく過去最高となっています（問9）。テレワークや副業を“利用したい”という意向は、2018年度の調査開始以来、増加傾向にあります。

社会人として働く上で重要なことについては、トップが「長期間、安心して働けること」（57.4%）、次いで「仕事内容に見合う報酬が得られること」（47.1%・過去最高）となりました（問7）。これに関連して働く上で企業に求めることは、「長期的な安定性」（72.1%）と「将来の成長性」（56.6%）、そして「社員への福利厚生の充実」（51.2%）がTOP3となっています。一方、近年取り上げられることの多い「業務のデジタル化（DX）の推進」や「SDGsへの積極的な取り組み」は、いずれも10%台にとどまっています。これらは、新入社員が企業に求めるものとしては、まだ優先順位が高くないようです（問15）。

また、年功序列と成果主義のどちらを望むかでは、61.1%が「成果主義」と回答しました。60%を超えたのは、2012年度以来10年ぶりとなります（問22）。

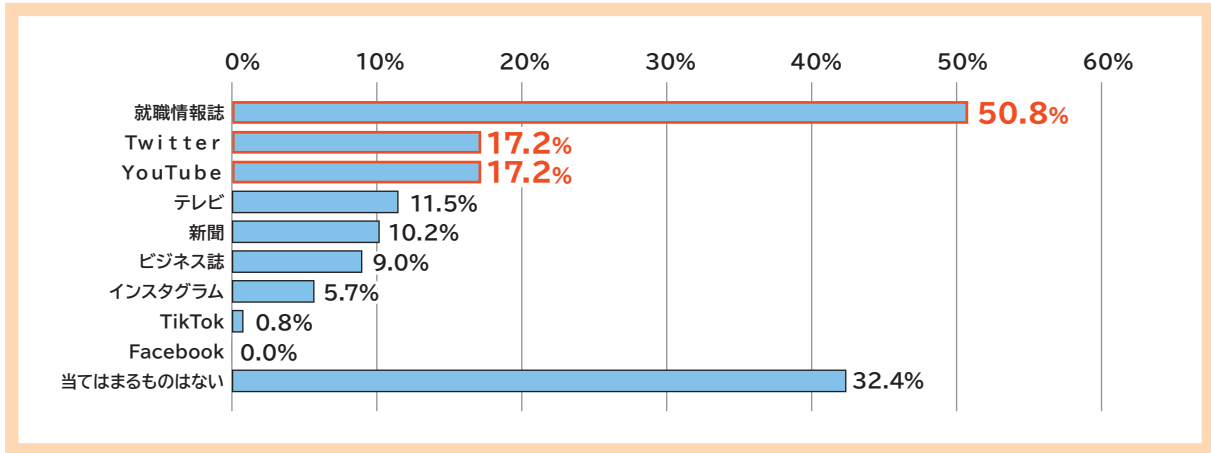
ジョブ型とメンバーシップ型の雇用制度についてどちらを望むかでは、「メンバーシップ型」が26.2%、「ジョブ型」が23.4%と比較的拮抗しており、それぞれの働き方を希望する新入社員が一定数いることが分かりました。

現在は定年が65歳まで延長される移行期にありますが、いつまで働きたいかを訊くと「60歳」が2020年度と同率で過去最高の44.3%となり、次いで「65歳」が26.6%となりました。一方「結婚や出産まで」を含む「20代」から「50代」までの定年前に退職したいとする合計は22.1%で、これまでで最も少なくなりました（問19）。

将来支給される公的年金（国民年金・厚生年金等）を老後の収入として期待しているかについては、「期待している」（21.3%）が前年度からほぼ倍増し、「どちらかといえば期待している」（20.9%）と合わせた“期待している”が42.2%となり過去最高となりました（問21）。

PICKUP DATA

企業の評判や
業界研究の情報源は？ / 就職情報誌 …………… 50.8%
Twitter・YouTube …… 各17.2%

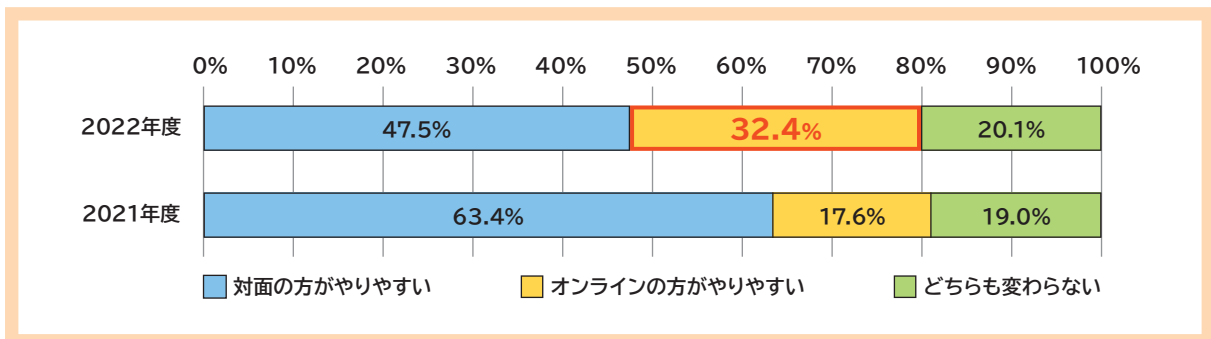


企業の評判調査や業界研究のための情報源として参考にしたメディア（P.12／問3・複数回答）を尋ねたところ、「就職情報誌」が50.8%で1位となり、リアルな情報誌が定番として根強い情報源となっていました。

一方で「Twitter」（17.2%）や「YouTube」（17.2%）が続いたほか、数値はやや低いものの「インスタグラム」（5.7%/7位）や「TikTok」（0.8%/8位）など、新たな情報源としてソーシャルメディアが台頭してきています。ソーシャルメディアは手軽に効率よく情報を入手するため、他のメディアへと移る入り口となっていると考えられます。なお、「Facebook」とする回答は0%で、同じソーシャルメディアでも明暗が分かれました。

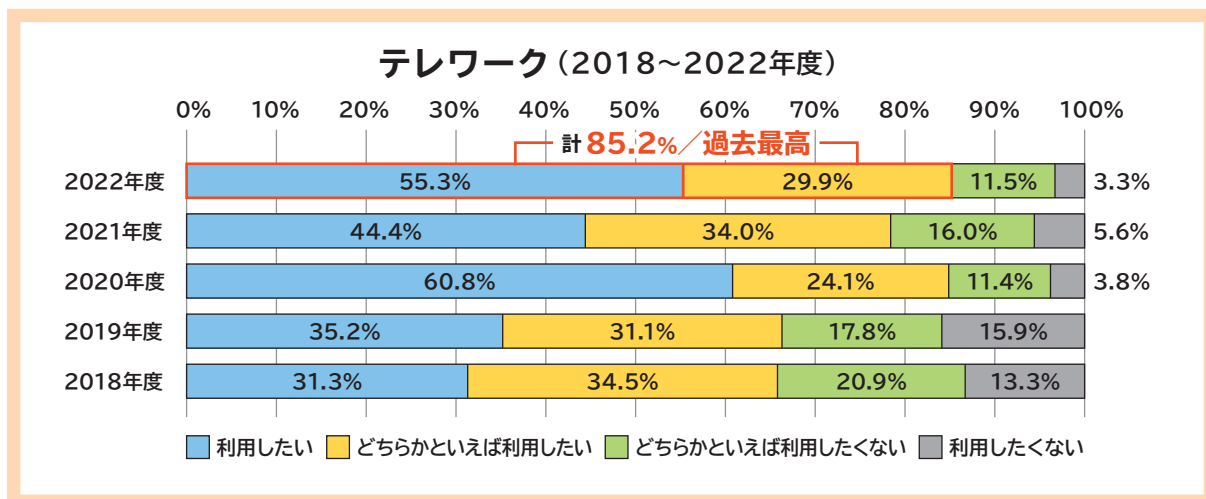
また、「テレビ」（11.5%）、「新聞」（10.2%）、「ビジネス誌」（9.0%）といったマスメディアは、それぞれ10%前後で4位から6位を占め、「Twitter」や「YouTube」に続きます。

採用面接はオンライン？対面？ / 「オンライン」が伸長 …… 32.4%

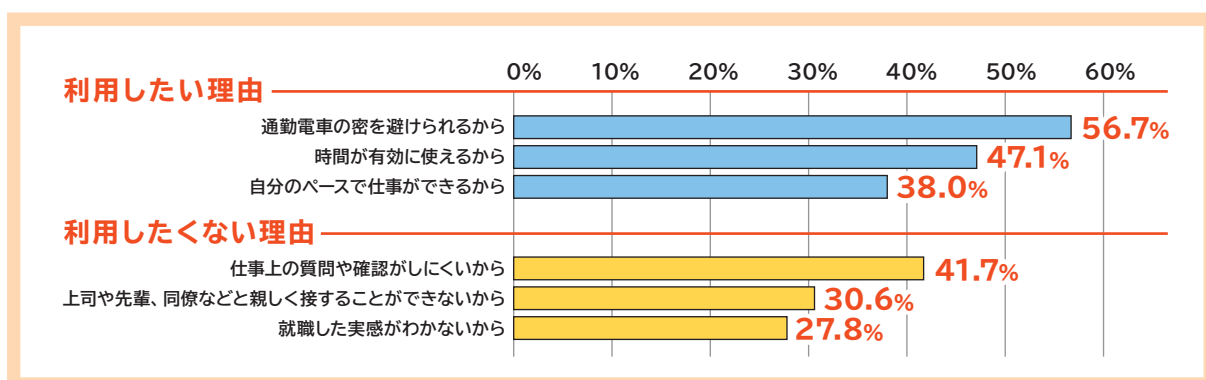


採用面接はオンラインと対面では、どちらがやりやすいか（P.13／問4・単数回答）を訊いたところ、「オンラインの方がやりやすい」が昨年度の17.6%から14.8ポイント増えた32.4%となりました。これは、オンラインを主体とする就職・採用活動が2年目を迎え、企業と就活生の双方でオンライン面接のノウハウが蓄積してきた結果と言えるでしょう。

テレワーク制度があれば？ / 「利用したい」…………… **85.2%**
 利用したい理由 / 「通勤電車の密が避けられる」…………… **56.7%**
 利用したくない理由 / 「質問や確認がしにくい」…………… **41.7%**



働き方改革としても注目され、コロナ禍によって導入が進んだテレワーク (P.20/問12・単数回答) については、「利用したい」と「どちらかといえば利用したい」との合計は85.2%となり、「利用したい」という意向は過去最高となりました。コロナ禍前の2018年度と2019年度の「利用したい」の合計は、それぞれ65.8%と66.3%でしたが、コロナ禍以降はデジタル化の進展と効率重視と言われるZ世代の傾向が相まってか、テレワークを利用したい要望が80%前後という高い割合で推移しています。



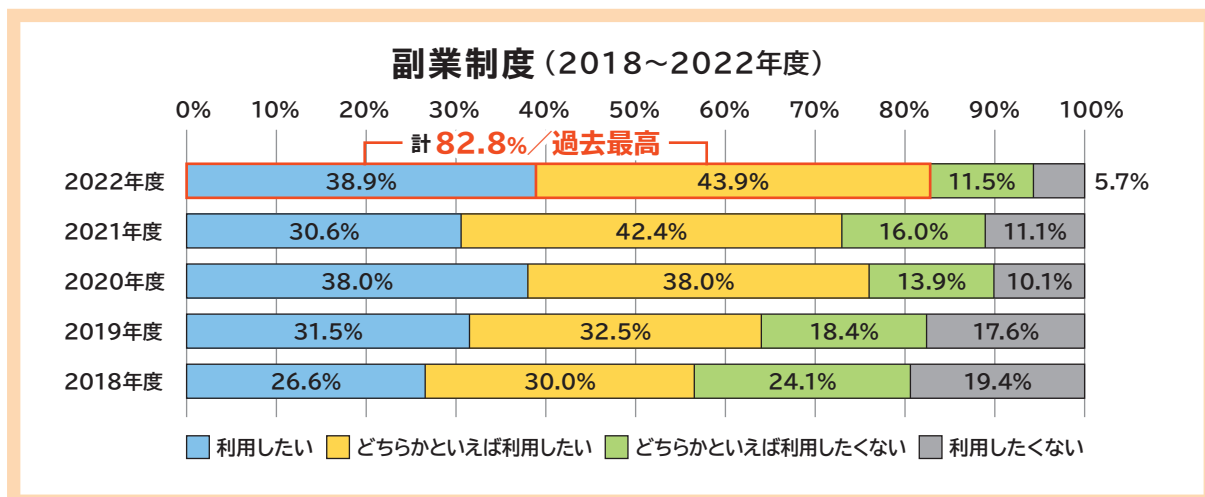
このテレワークを利用したい理由 (P.21/問13・複数回答) としては、「通勤電車の密を避けられるから」が56.7%と一番多く、次いで「時間が有効に使えるから」が47.1%、「自分のペースで仕事ができるから」が38.0%で続きました。

利用したくない理由は (P.21/問14・複数回答)、「仕事上の質問や確認がしにくい」(41.7%)、「上司や先輩、同僚などと親しく接することができない」(30.6%)といった回答のほか、「就職した実感がわからないから」(27.8%)と新入社員にとって切実な理由も挙げられています。この利用したくない理由は、テレワーク環境下で企業・組織のOJT (On the Job Trainingの略) が機能しづらくなっている一因としても捉えられそうです。

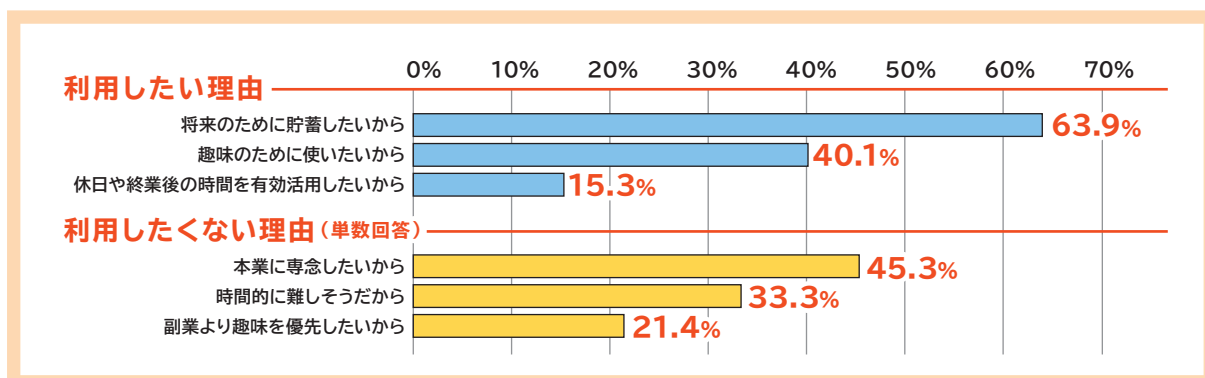
副業制度があれば？／「利用したい」…………… 82.8% 過去最高

利用したい理由／「将来のために貯蓄したい」…………… 63.9%

利用したくない理由／「本業に専念したい」…………… 45.3% 過去最高



昨今、導入企業も少しずつ増えてきた副業について、どの程度利用したいか (P.18／問9・単数回答) は、「利用したい」が38.9%、「どちらかといえば利用したい」が43.9%で、これらを合計した“利用したい”という回答が過去最高の82.8%となりました。副業を利用したいという回答割合は過去5年間で増加傾向にあり、次ページでの働く上で重要なこととして「仕事内容に見合う報酬が得られること」との回答が約47%と半数近くであることも含め、収入面に関する真剣な様子が見て取れます。



この副業制度を利用したい理由 (P.19／問10・複数回答) としては、「将来のために貯蓄したいから」(63.9%) がトップで、次いで「趣味のために使いたいから」(40.1%)、「休日や就業後の時間を有効活用したいから」(15.3%) となっています。

他方、利用したくない理由 (P.19／問11・単数回答) としては、過去最高となる「本業に専念したいから」(45.3%) を筆頭に、「時間的に難しそうだから」(33.3%)、「副業より趣味を優先したいから」(21.4%) と続きます。

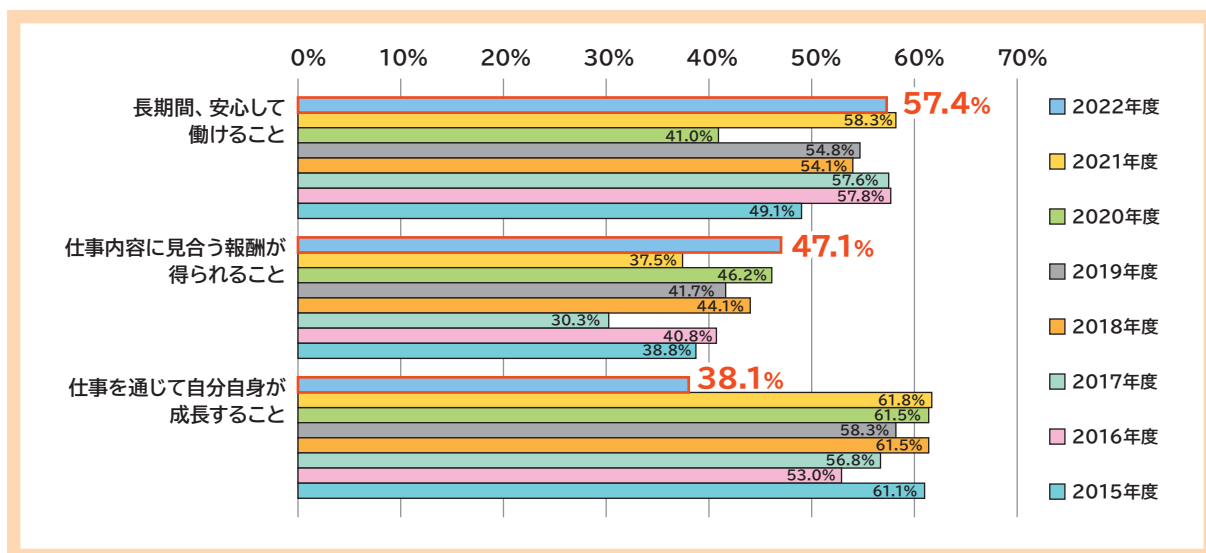
副業制度を利用したい新入社員は、昨今の先行き不透明感の影響もあってか、将来に備えた堅実派が多くなりました。また、副業利用の希望有無に関わらず、「趣味のため、や」趣味を優先したい、など、プライベートを充実させたい意向も目立っています。

働く上で 重要なことは？

「長期間、安心して働けること」…………… **57.4%**
 「仕事内容に見合う報酬が得られること」… **47.1%**
 「仕事を通じて自分自身が成長すること」… **38.1%**

過去
最高

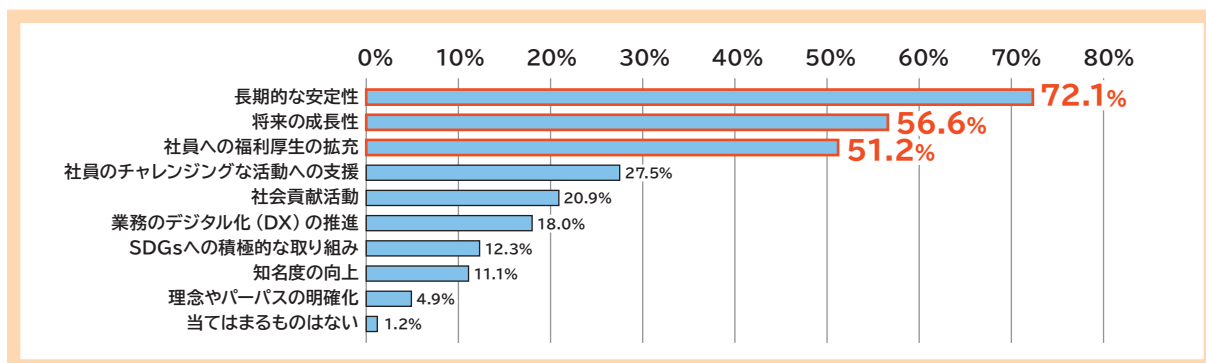
過去
最低



働く上でどのようなことが自分にとって重要だと感じるか（P.16／問7・複数回答）では、「長期間、安心して働けること」が1位で57.4%、そして「仕事内容に見合う報酬が得られること」（47.1%）、「仕事を通じて自分自身が成長すること」（38.1%）が続きます。

これら上位3項目を経年比較すると、「長期間、安心して働けること」は、2020年度は41.0%と落ち込んでいますが、その他の年度は50%前後から6割近くを占めています。また、「仕事内容に見合う報酬が得られること」は過去最高となっています。反面、「仕事を通じて自分自身が成長すること」は、過去4年間連続でトップでしたが、昨年度から23.7ポイント下げて過去最低となり3位に後退しました。

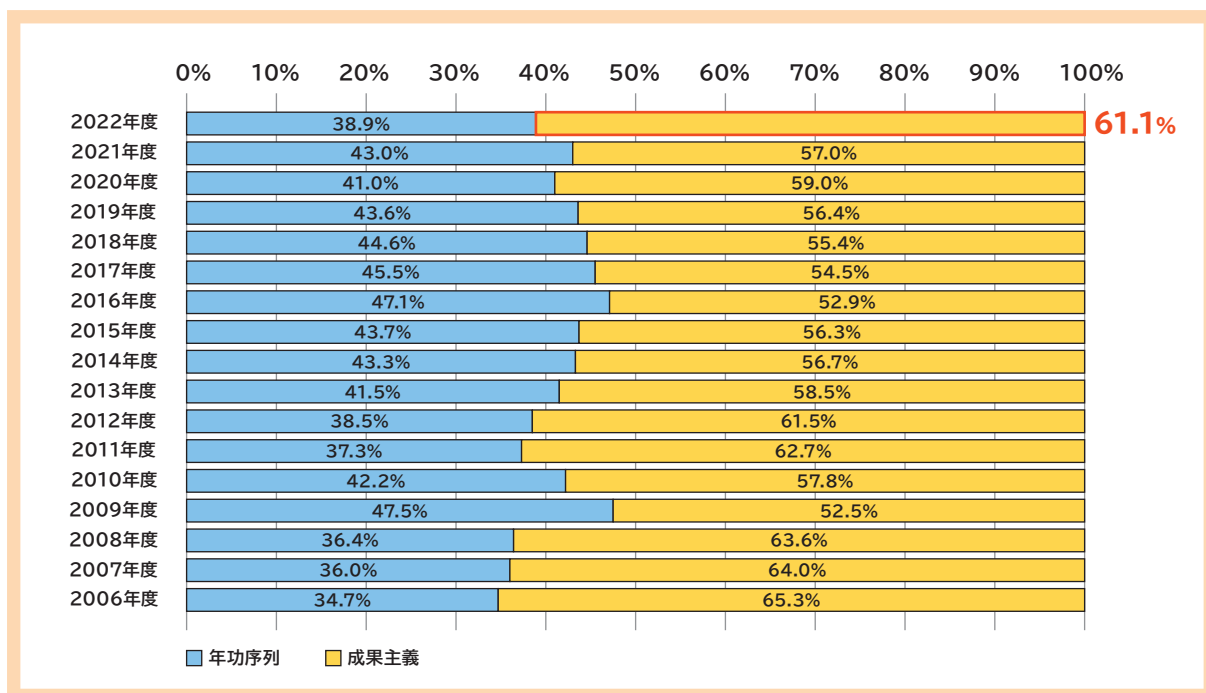
働く上で企業に求めるものは？/「長期的な安定性」…………… **72.1%**



働く上で企業に求めるものは何か（P.22／問15・複数回答）を尋ねると、「長期的な安定性」（72.1%）、「将来の成長性」（56.6%）、「社員への福利厚生の実現」（51.2%）の3項目が過半数となり、TOP3となっています。

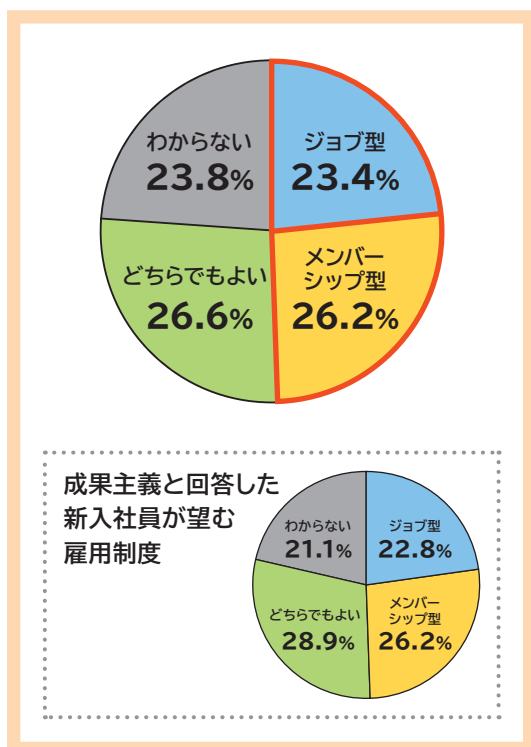
近年、話題となっている「業務のデジタル化（DX）の推進」（18.0%）や「SDGsへの積極的な取り組み」（12.3%）などは、新入社員が企業に求めるものとして、まだ優先順位が高くないようです。

年功序列と成果主義、どちらを望む？/「成果主義」…… 61.1%



人事制度において年功序列と成果主義とではどちらを望むか (P.29/問22・単数回答) を二者択一で尋ねた結果、「成果主義」が61.1%、「年功序列」が38.9%となりました。「成果主義」が60%を超えたのは、2012年度以来10年ぶりです。

ジョブ型とメンバーシップ型、どちらを望む？ / 「ジョブ型」…… 23.4% 「メンバーシップ型」…… 26.2%

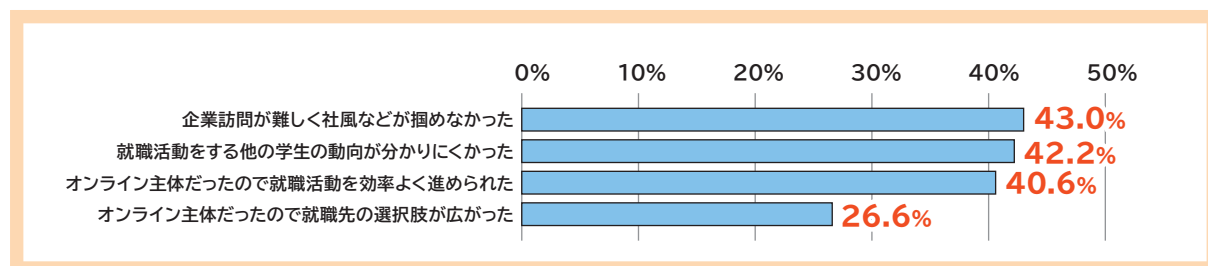


ジョブ型雇用制度とメンバーシップ型雇用制度のどちらを望むか (P.31/問24・単数回答) では、「ジョブ型」23.4%、「メンバーシップ型」26.2%とほぼ拮抗しており、これらに関心がある割合がそれぞれ一定数いることが分かりました。会社側の雇用制度に準じる「どちらでもよい」は26.6%で、「わからない」とする回答は23.8%でした。

また、前述で約61%と過半数の回答があった「成果主義」と回答した新入社員の「ジョブ型」と「メンバーシップ型」のどちらを望むかをクロス集計したところ、「ジョブ型」が22.8%、「メンバーシップ型」が26.2%となり、全体のデータと大きな差はありませんでした (円グラフ下)。

就職活動への コロナ禍の 影響は？

「企業訪問が難しく、社風が掴めなかった」……………**43.0%**
 「他の学生の動向が不明」……………**42.2%**
 「オンライン主体で効率よく進められた」……………**40.6%**



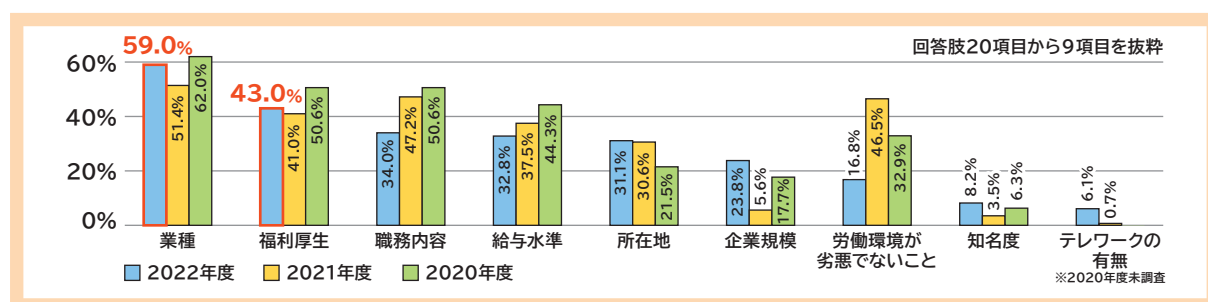
コロナ禍による就職活動への影響（P.12／問2・複数回答）について尋ねたところ、「企業訪問が難しく社風などが掴めなかった」が43.0%、「就職活動をする他の学生の動向が分かりにくかった」が42.2%となり、企業の実情や他の学生の情報を得にくかったことがわかります。

一方、オンライン主体の就職活動となったことで、「就職活動を効率よく進められた」（40.6%）や「就職先の選択肢が広がった」（26.6%）など、オンラインならではのメリットもあったようです。

前述のオンラインによる面接の方がやりやすいとの回答が増加（問4）したことや、テレワークを利用したいとの回答（問12）が過去最高となったことから、デジタルツールを効率よく効果的に活用するZ世代らしい傾向がここでも見て取ることができます。

就職先を選ぶ際に 重視した点は？

「業 種」……………**59.0%**
 「福利厚生」……………**43.0%**



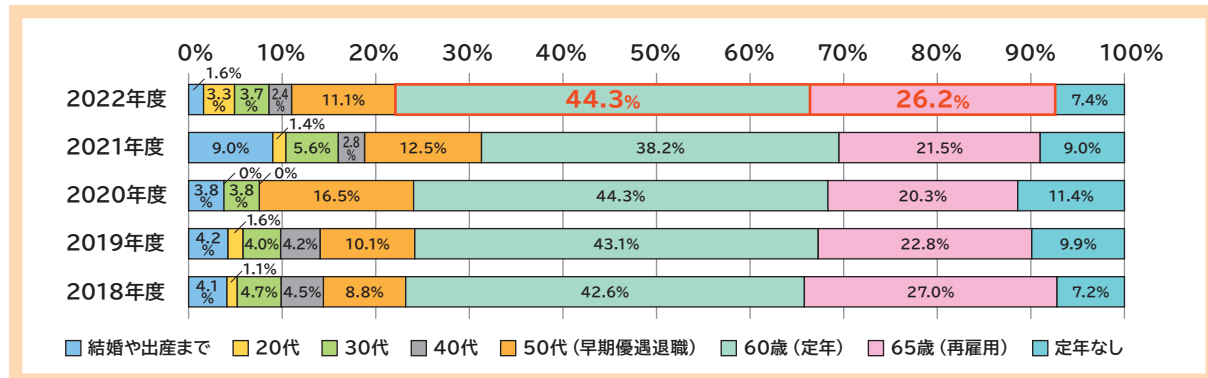
就職先を選ぶ際に重視した点（P.15／問6・複数回答）を訊くと、「業種」（59.0%）が最も高く、続く「福利厚生」（43.0%）、「職務内容」（34.0%）がTOP3となっています。

2020年度以降と比較すると「業種」は3年連続で1位、「福利厚生」は一昨年度2位、昨年度4位でした。「職務内容」と本年度4位の「給与水準」（32.8%）は、一昨年度から徐々に減少しています。さらに昨年度46.5%で3位だった「労働環境が劣悪でないこと」は、16.8%と29.7ポイントの大幅減になりました。5位の「所在地」（31.1%）は昨年度から順位を一つ上げ、8位の「企業規模」は昨年度の5.6%から23.8%と大きく増えました。さらに「知名度」は14位と順位は低いものの昨年度の3.5%から8.2%にアップしており、就職先として企業のステータス性を重視していた傾向が見られます。

なお、前述にて利用したいと要望が多かったテレワークについては、回答数は少ないながら「テレワークの有無」との回答が昨年度の0.7%から6.1%に増えています。

いつまで働きたい？ / 「60歳」…………… 44.3%
 「65歳」…………… 26.2%
 「50代」までに退職…………… 22.1%

過去
最低

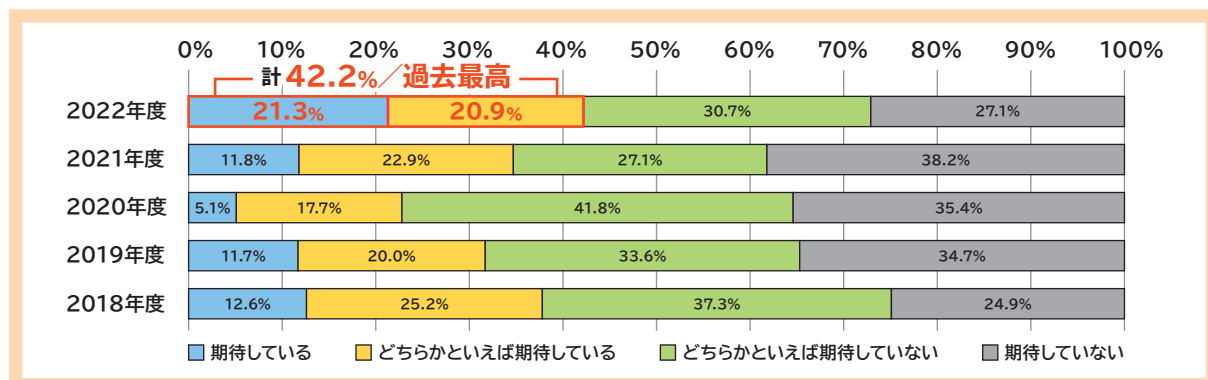


1998年から施行された60歳定年、2012年には希望者全員に65歳まで、そして65歳定年制や定年廃止などの義務化が3年後に控えている移行期にあって、いつまで被雇用者（会社勤めなど）として働きたいと思うか（P.26／問19・単数回答）との設問には、「60歳（定年）」が44.3%で昨年度から6.1ポイント増加し、2020年度と同率で過去最高となりました。続いて「65歳（再雇用）」が26.2%で、2020年度からは増加傾向となっています。これら「60歳」と「65歳」を合計すると70.5%で過去最高となりました。新入社員にとっても延長されていく定年の年齢は意識する対象となっている様子が透けて見えます。

なお、「結婚や出産まで」を含む「20代」から「50代（早期優遇退職）」の範囲の定年前に退職したいとする合計は22.1%で過去最低となりました。

老後の収入、公的年金には？ / 「期待している」…………… 42.2%

過去
最高



将来支給される公的年金（国民年金・厚生年金等）を老後の収入として期待しているかどうか（P.28／問21・単数回答）では、「期待している」（21.3%）、「どちらかといえば期待している」（20.9%）を合わせると“期待している”新入社員は42.2%で過去最高となりました。この“期待している”という新入社員は2020年度には22.8%、2021年度は34.7%、そして本年度は42.2%と増加傾向にあります。ちなみに“期待している”と回答した新入社員のうち、副業を“利用したくない”とする割合は57.1%となり、副業による収入より、将来的には公的年金に期待を寄せていることが分かります。

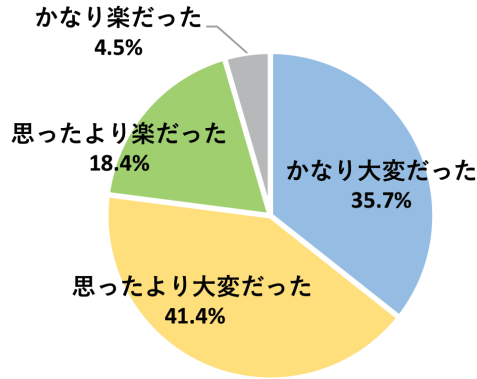
2022年度(第33回)新入社員の
会社生活調査
データ集

※「データ集」における経年比較は、その質問を開始した年度以降のデータをすべて記載しています。

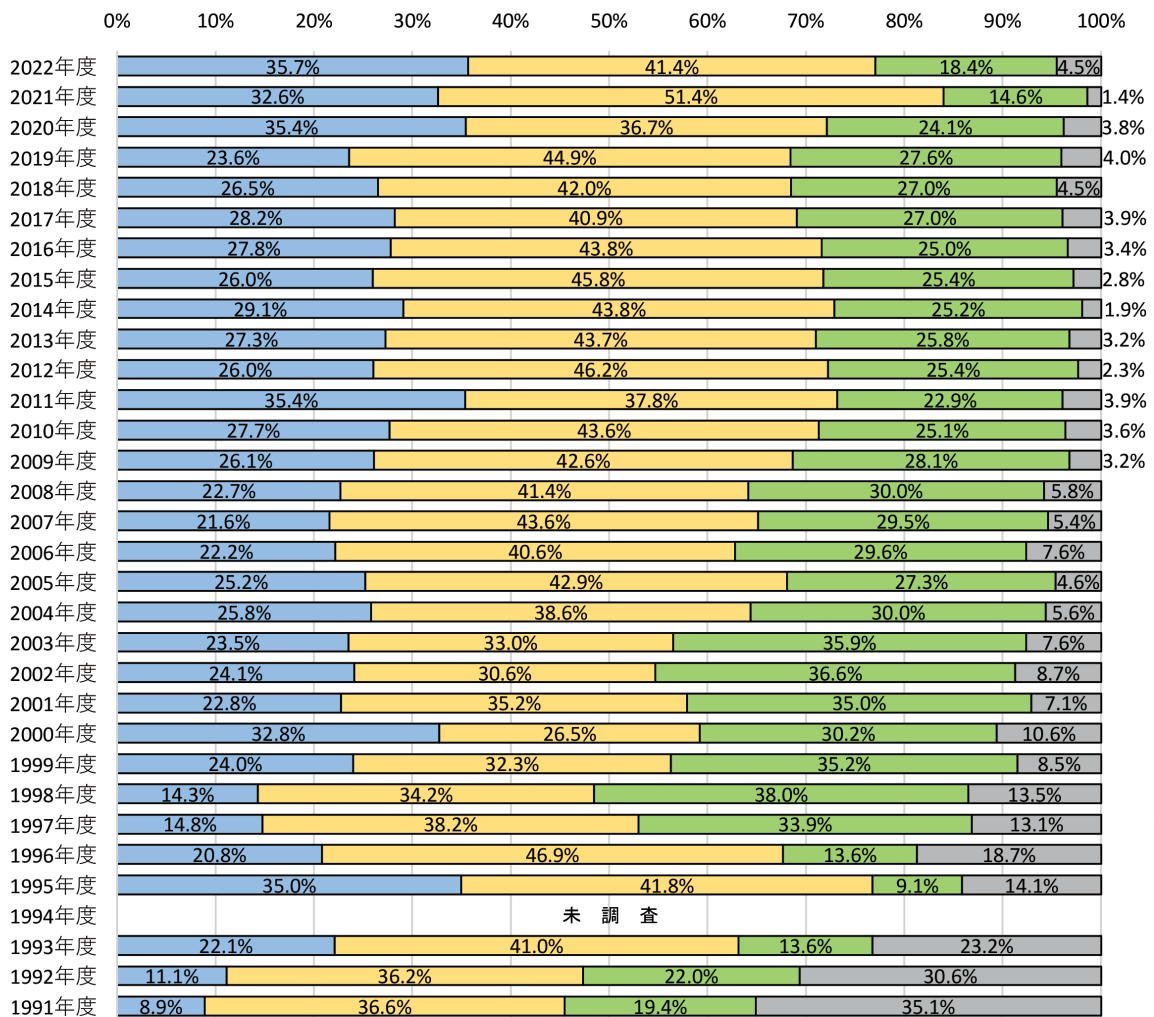
問 1

就職活動を振り返って、どのように感じましたか？(1つ選択)

(n=244)



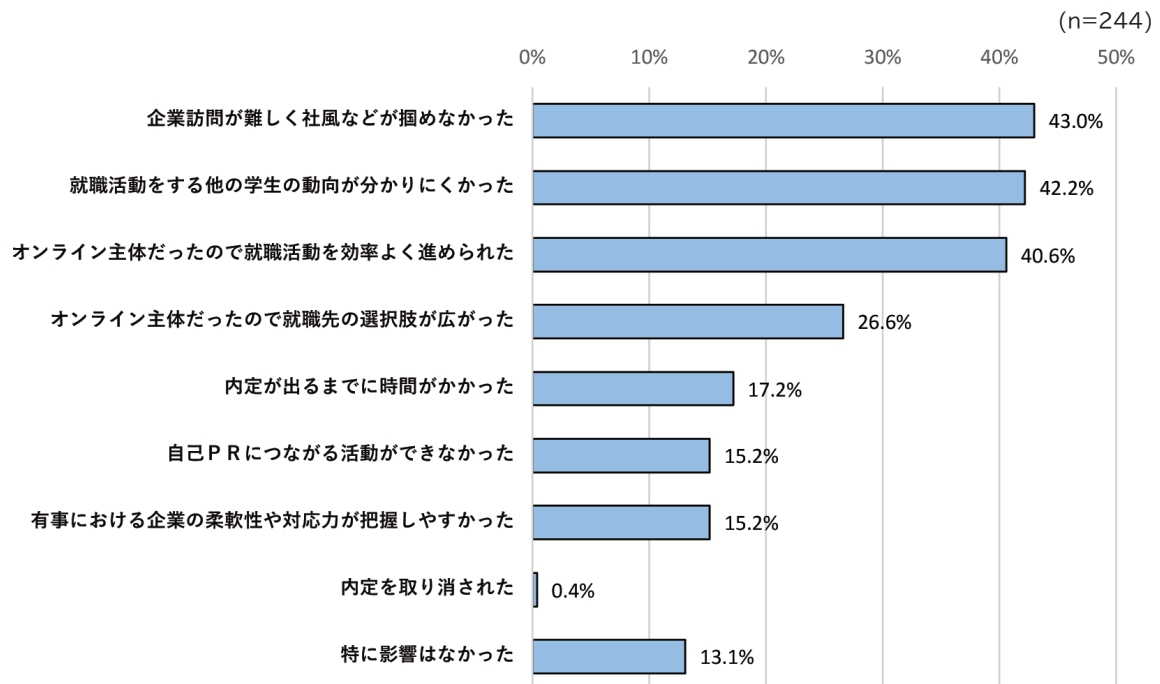
経年比較 (1991~2022年度)



■かなり大変だった ■思ったより大変だった ■思ったより楽だった ■かなり楽だった

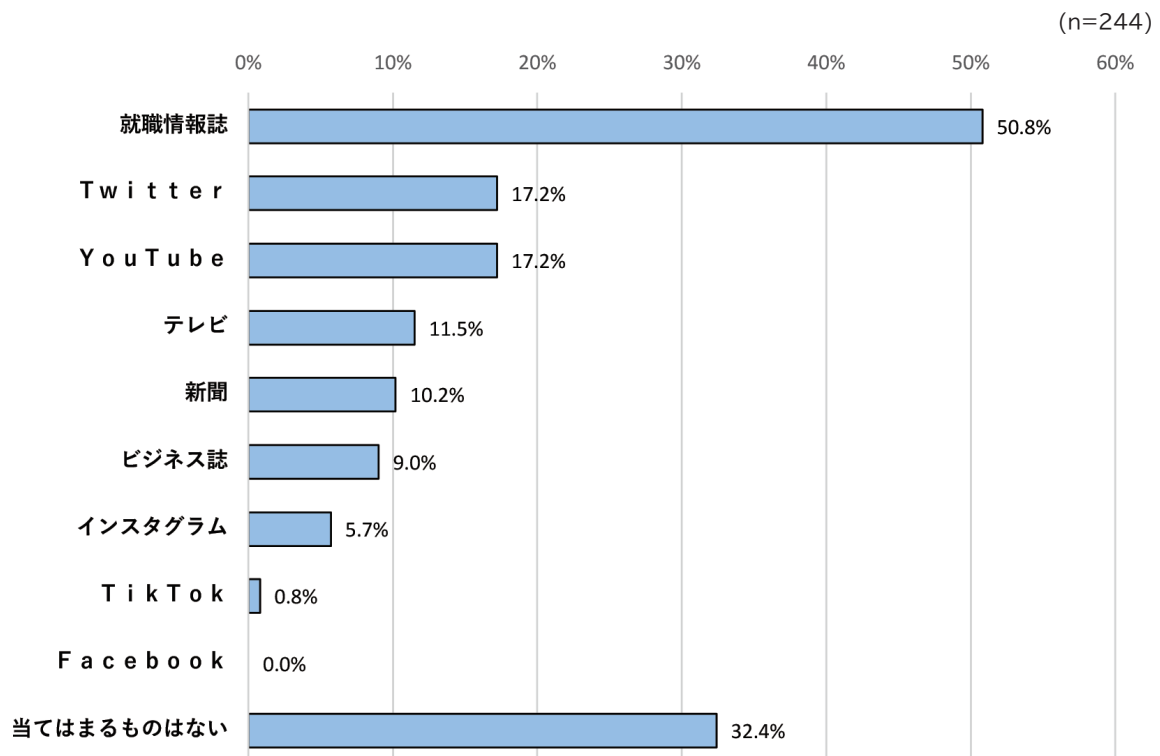
問 2

就職活動において、新型コロナウイルス感染拡大（以下、コロナ禍）の影響はありましたか？（当てはまるものをすべて選択）



問 3

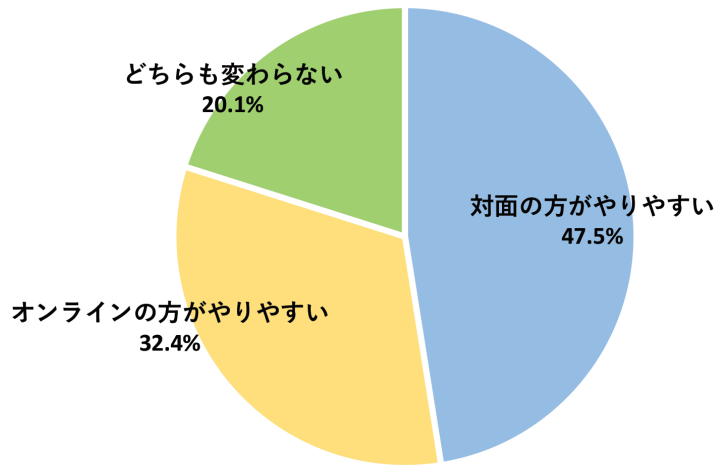
企業の評判調査や業界研究のための情報源として参考にしたメディアはありますか？（当てはまるものをすべて選択）



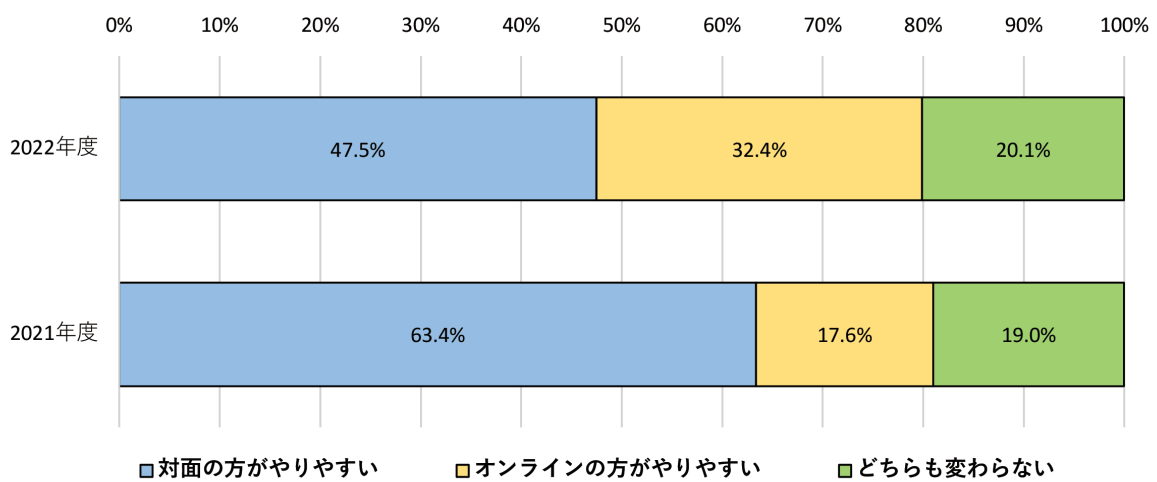
問 4

オンラインによる面接と対面での面接では、どちらがやりやすいですか？
(1つ選択)

(n=244)



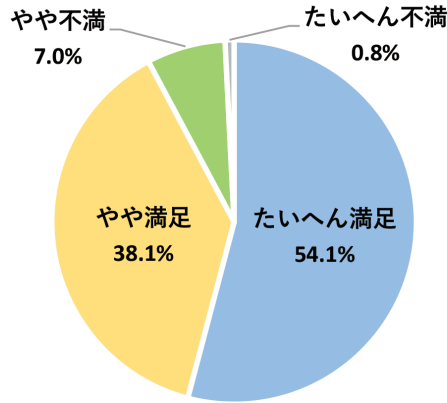
経年比較 (1921~2022年度)



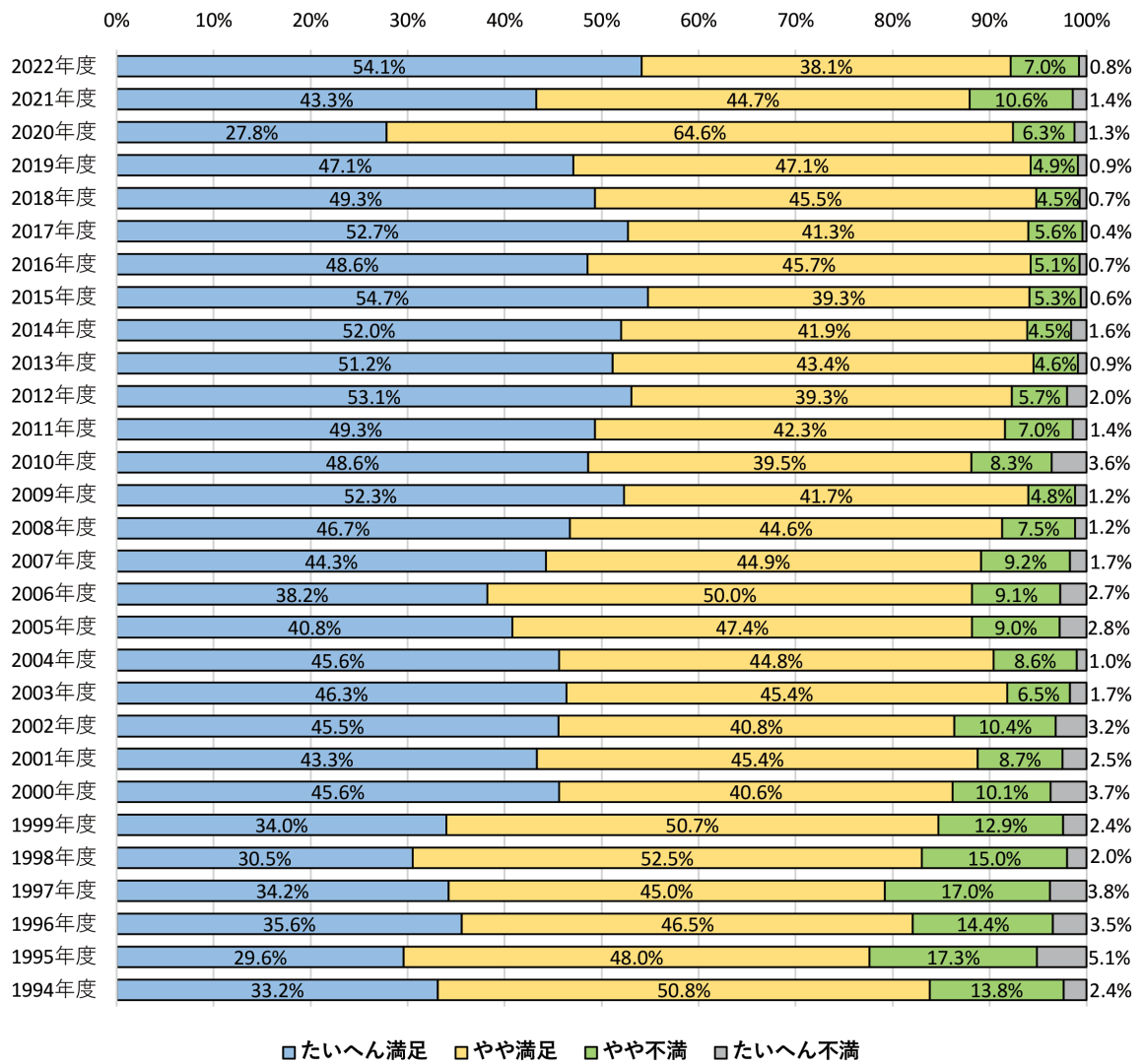
問 5

就職活動の結果に満足していますか？(1つ選択)

(n=244)

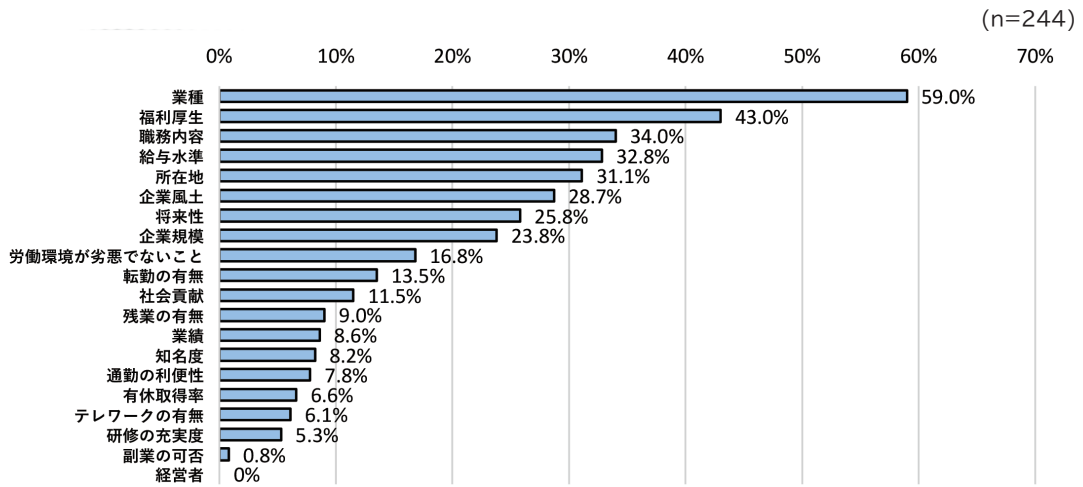


経年比較 (1994~2022年度)

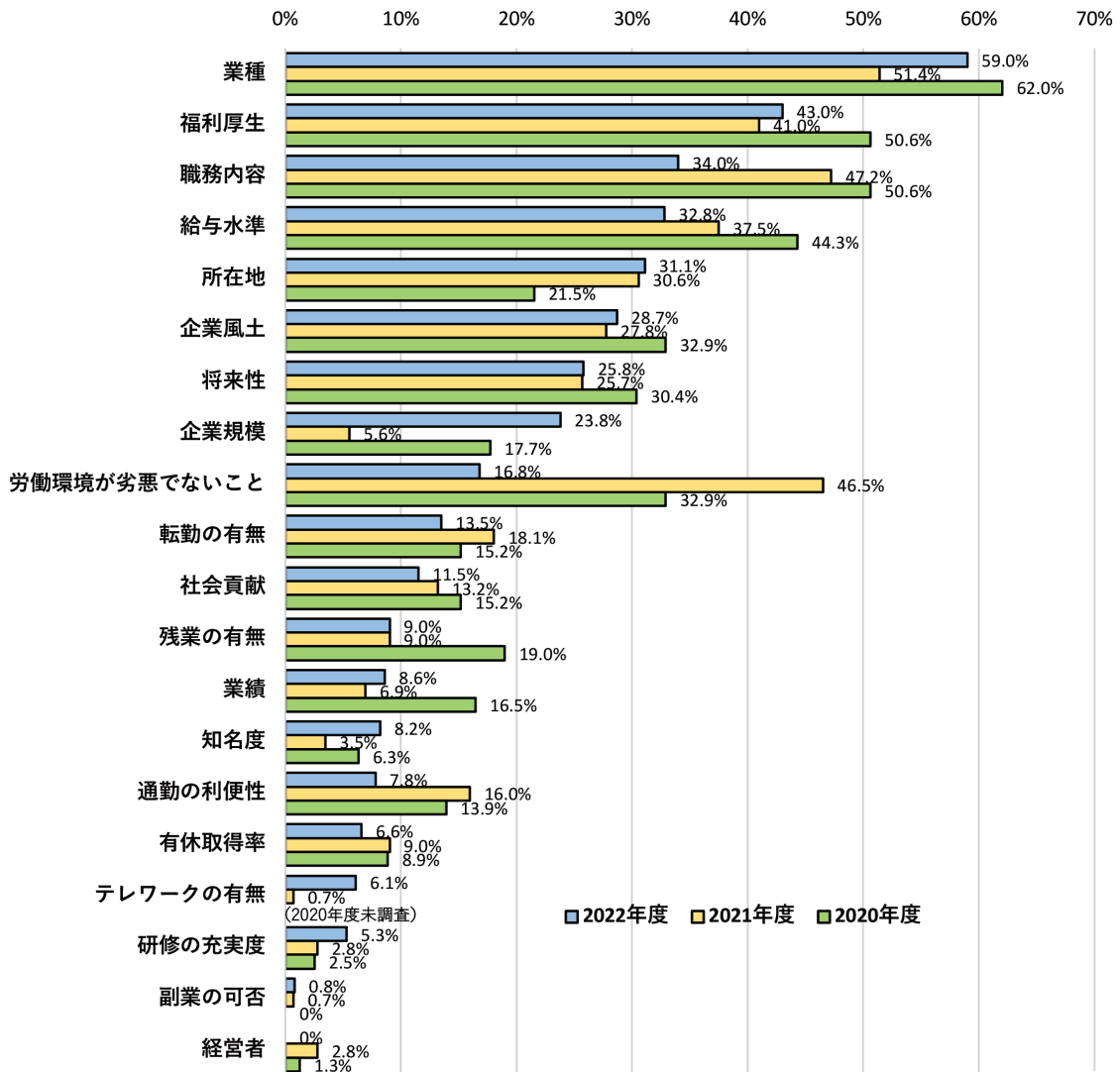


問 6

就職先を選ぶ際に重視した点は何ですか？（5つまで選択可）



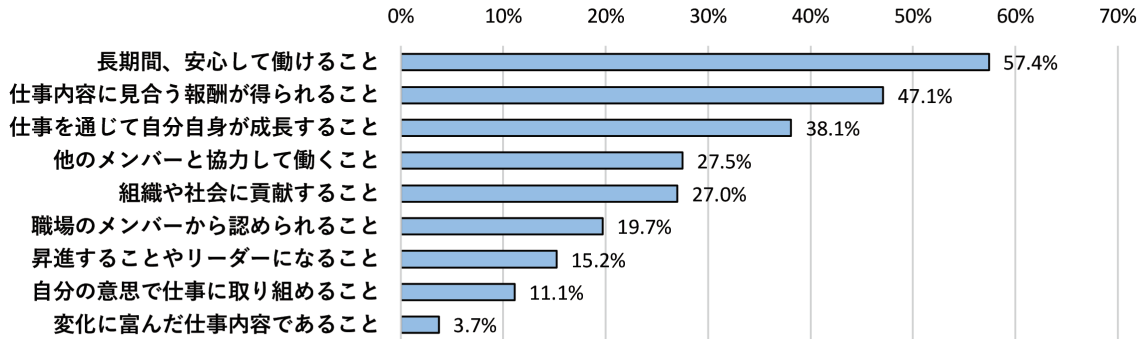
経年比較（2020～2022年度）



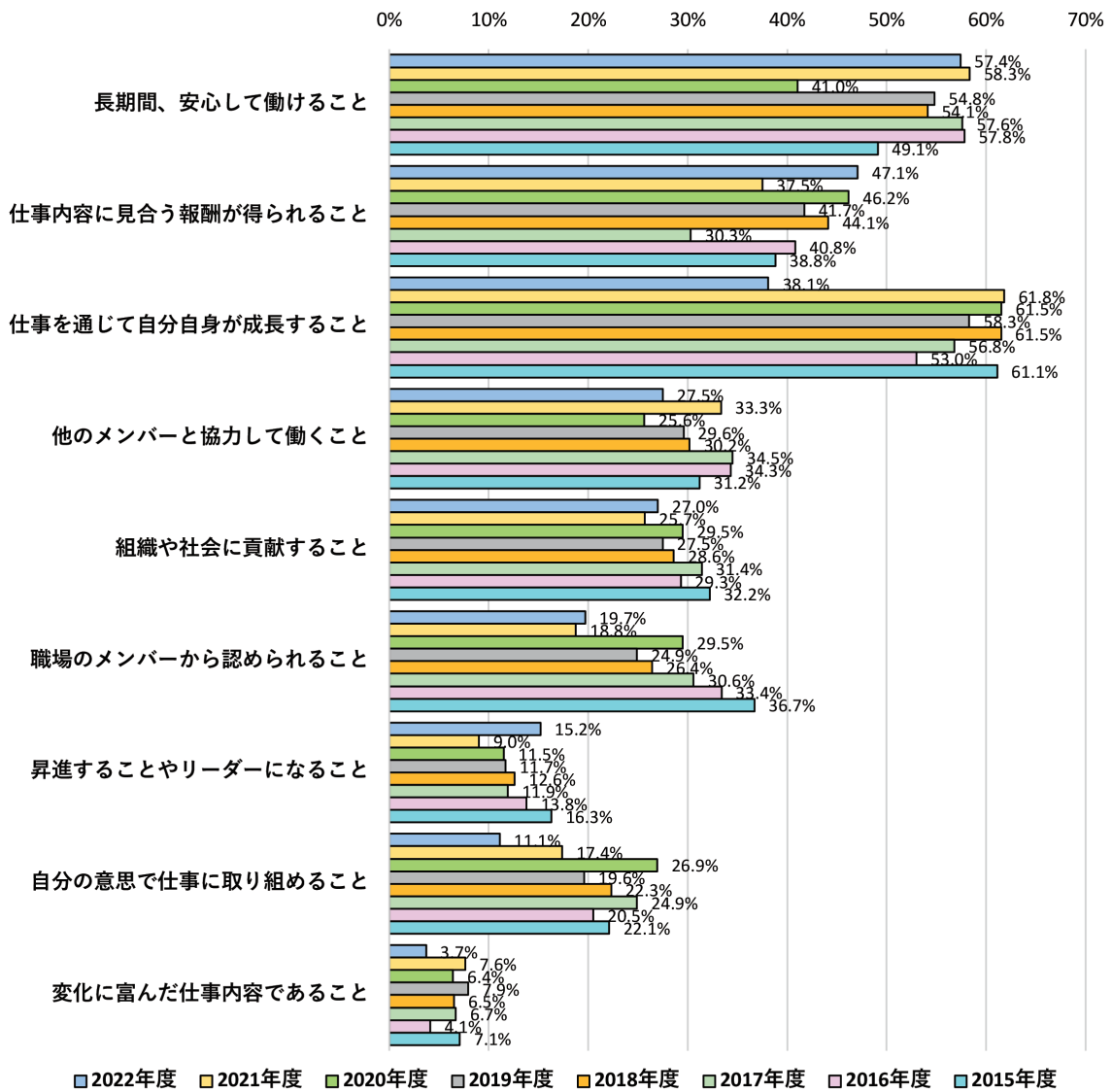
問 7

あなたは「働く」上で、どのようなことが自分にとって重要だと感じますか？（3つまで選択可）

(n=244)



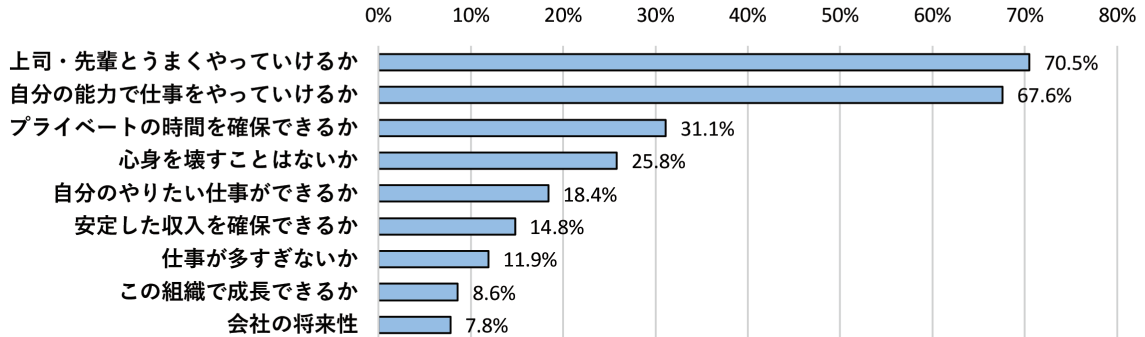
経年比較（2015～2022年度）



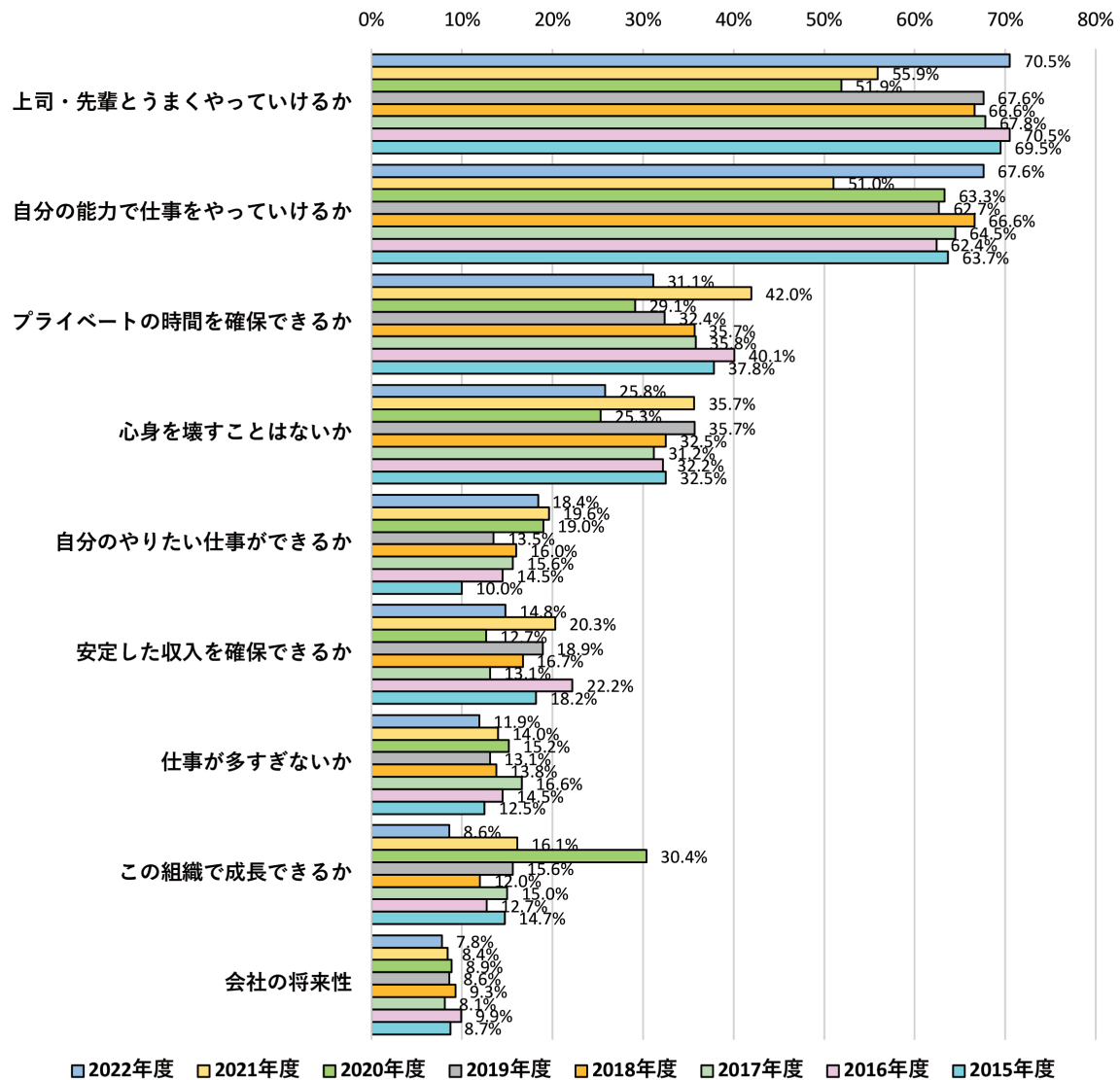
問 8

働き始めるにあたって、不安に思っていることは何ですか？
(3つまで選択可)

(n=244)



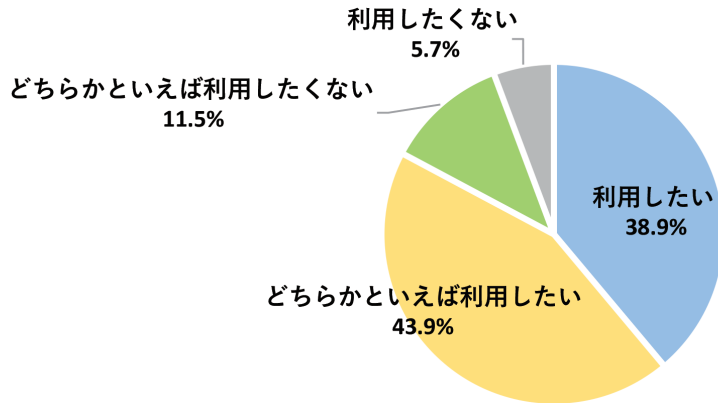
経年比較 (2015~2022年度)



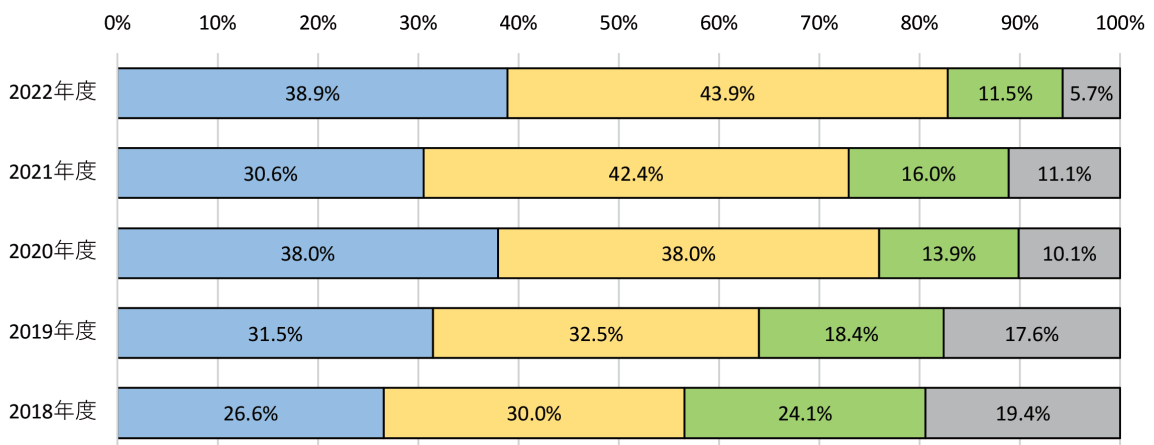
問 9

会社に副業容認制度があった場合、利用したいと思いますか？
(1つ選択)

(n=244)



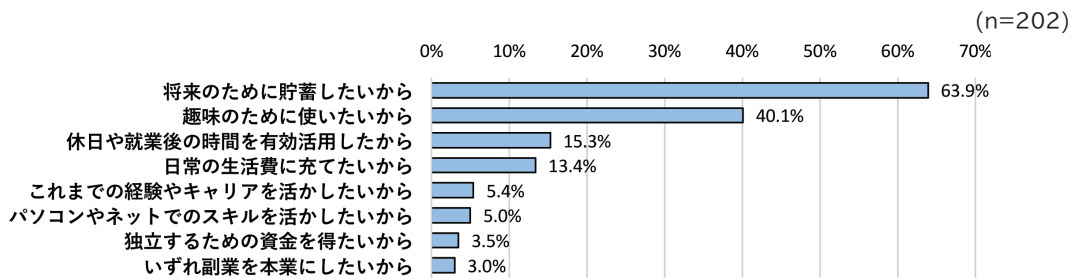
経年比較 (2018~2022年度)



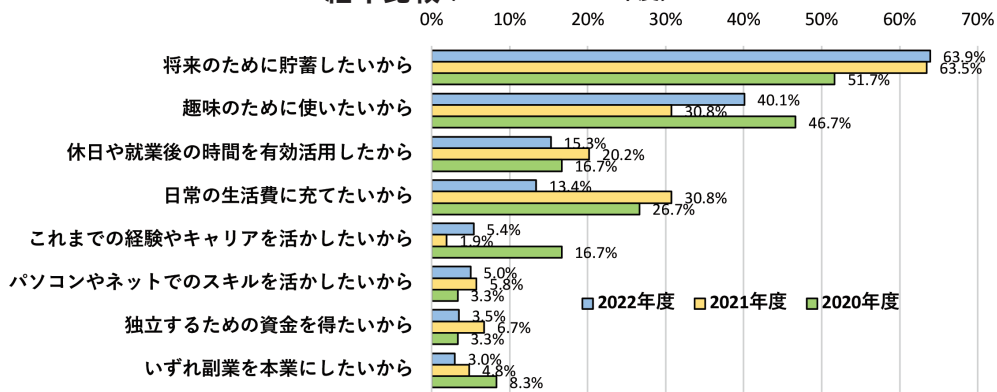
■利用したい ■どちらかといえば利用したい ■どちらかといえば利用したくない ■利用したくない

問10

【問9で1または2を回答した方へ】副業をしたい理由はどれですか？
(2つまで選択可)



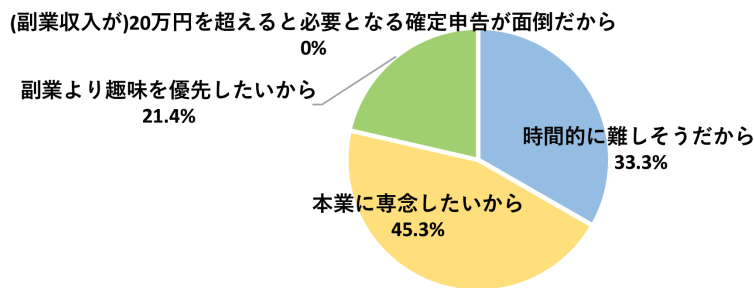
経年比較 (2020~2022年度)



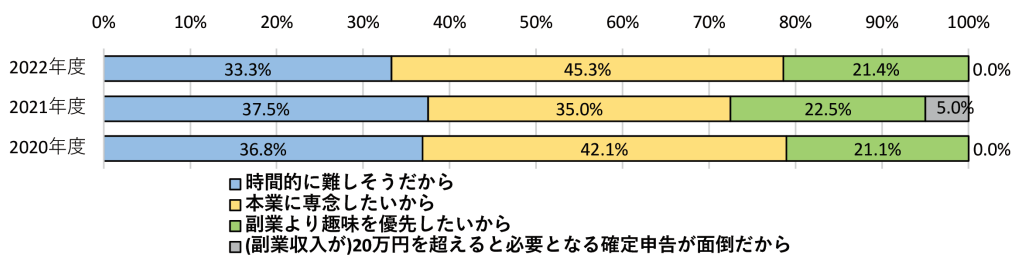
問11

【問9で3または4を回答した方へ】副業をしたくない理由はどれですか？(1つ選択)

(n=42)



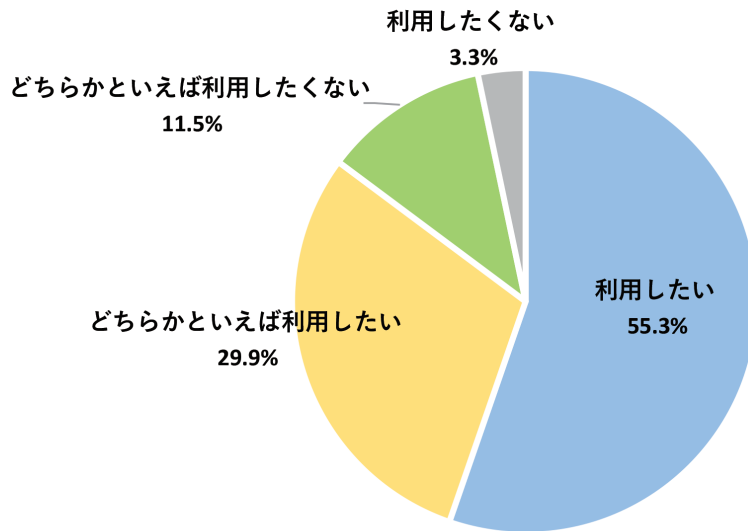
経年比較 (2020~2022年度)



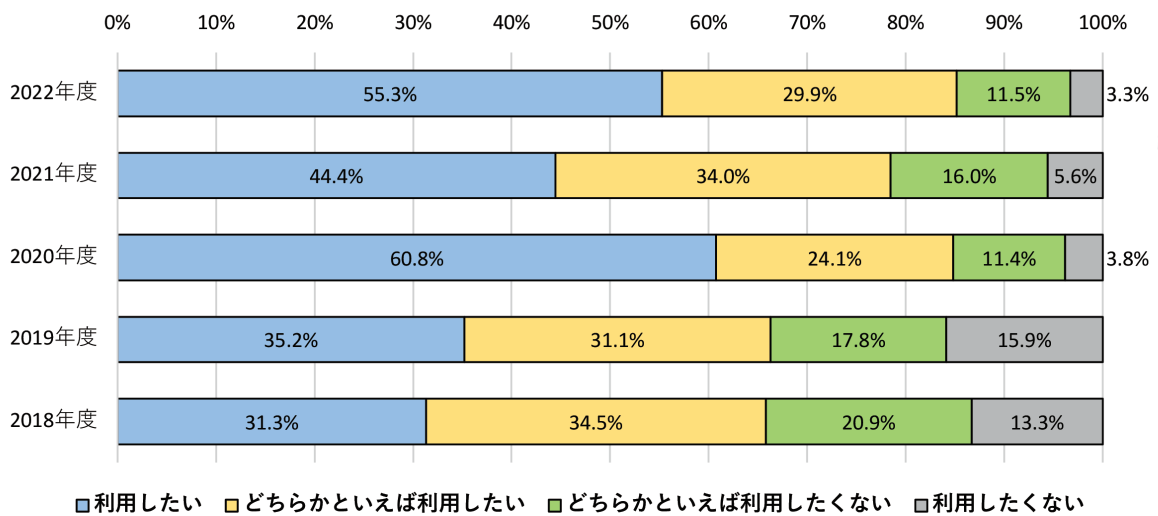
問12

会社にテレワーク制度があった場合、利用したいと思いますか？
(1つ選択)

(n=244)

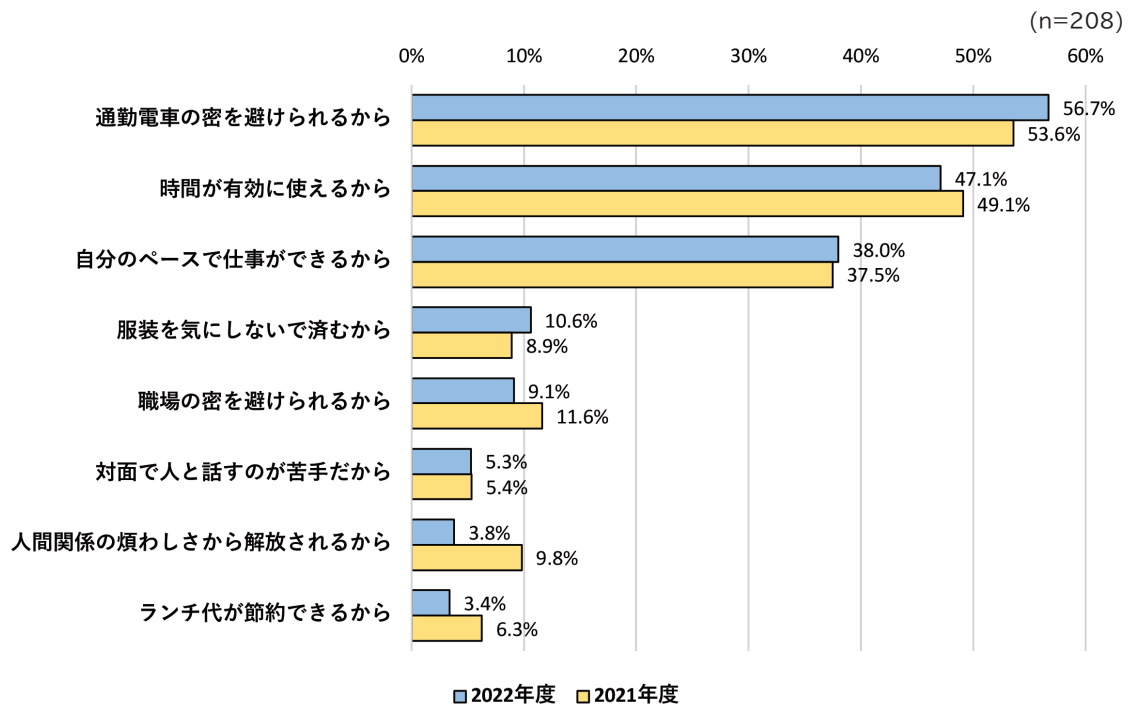


経年比較 (2018~2022年度)



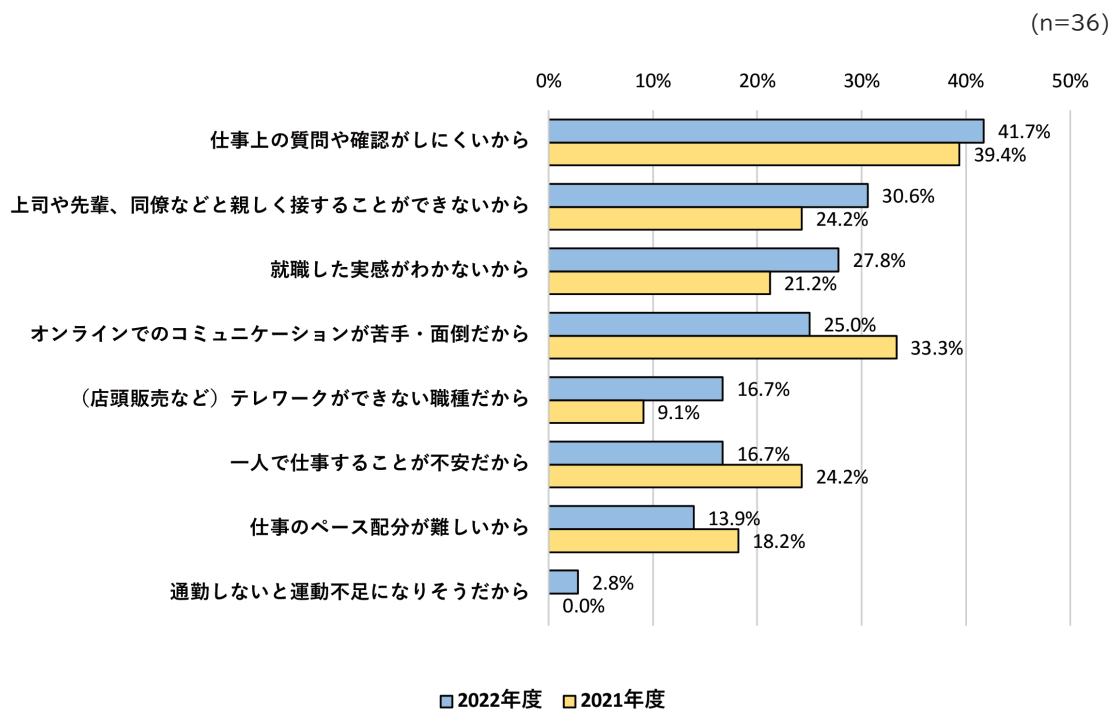
問13

【問12で1または2を回答した方へ】テレワークをしたい理由はどれですか？（2つまで選択可）



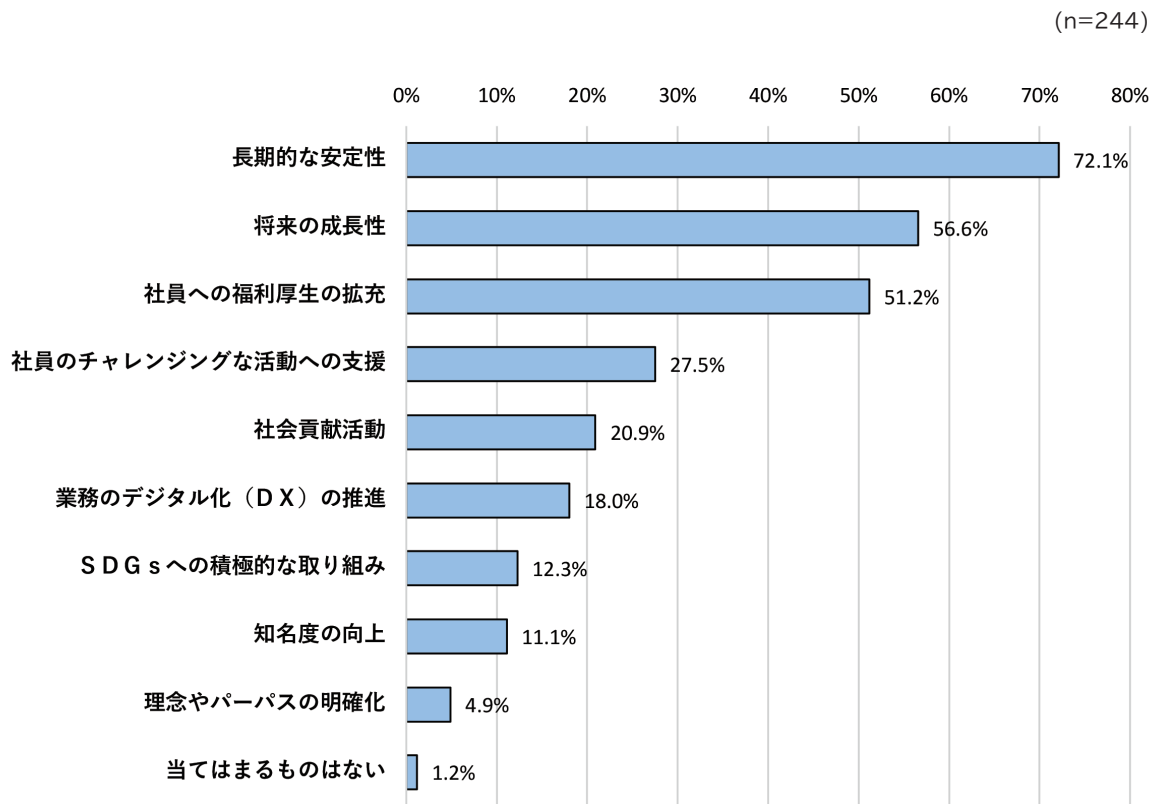
問14

【問12で3または4を回答した方へ】テレワークをしたくない理由はどれですか？（2つまで選択可）



問 15

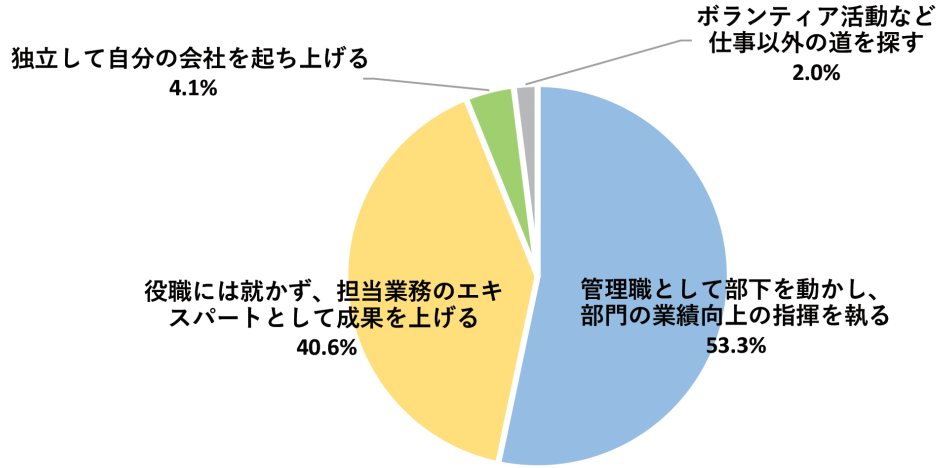
働く上で企業に求めるものは何ですか？（当てはまるものをすべて選択）



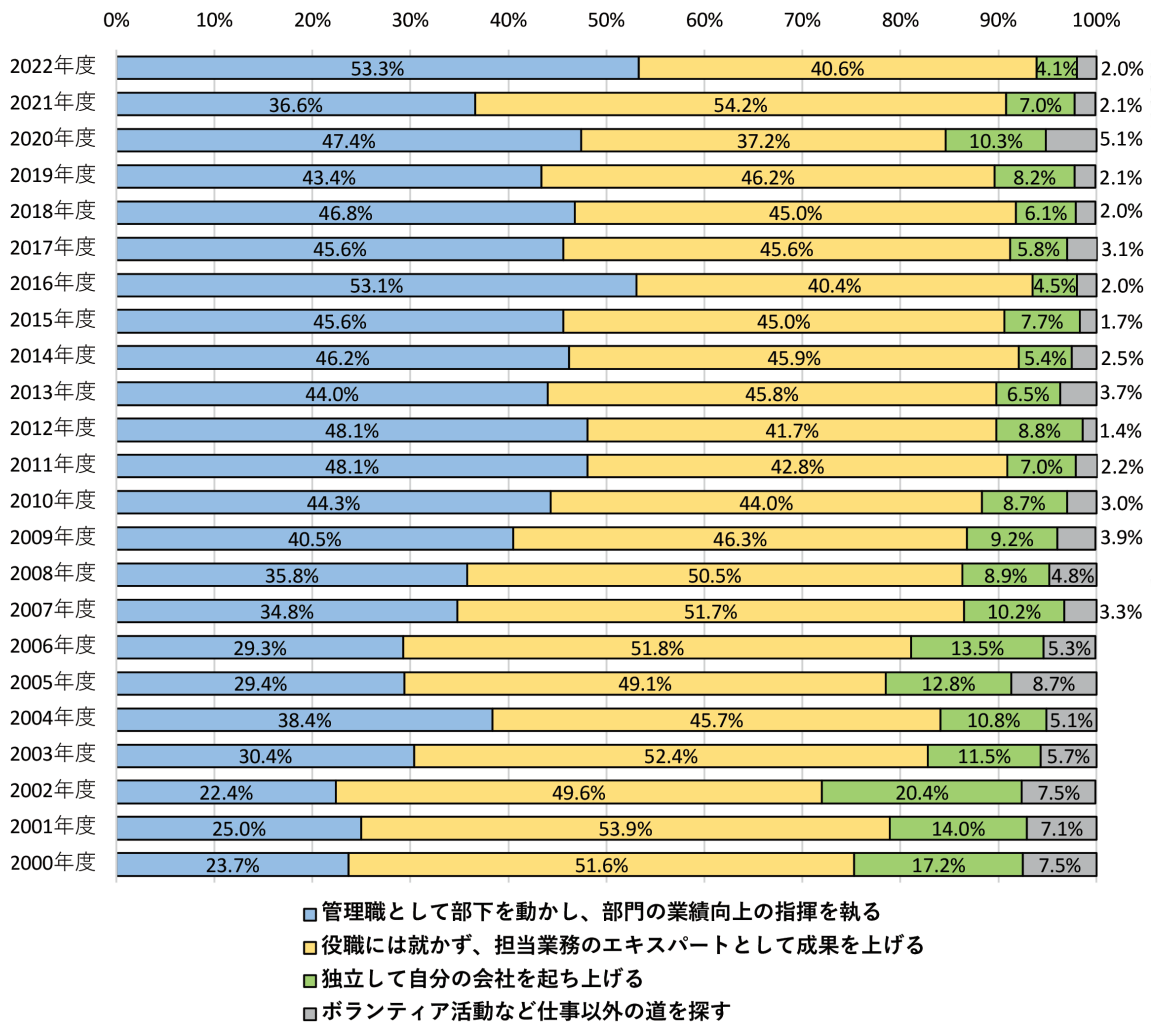
問 16

将来のキャリアについてどのように考えていますか？(1つ選択)

(n=244)



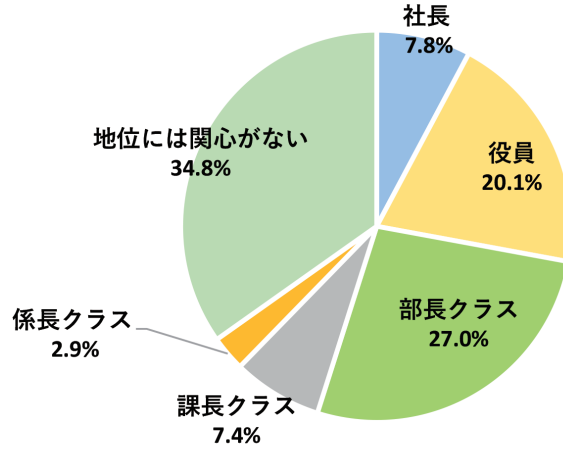
経年比較 (2000~2022年度)



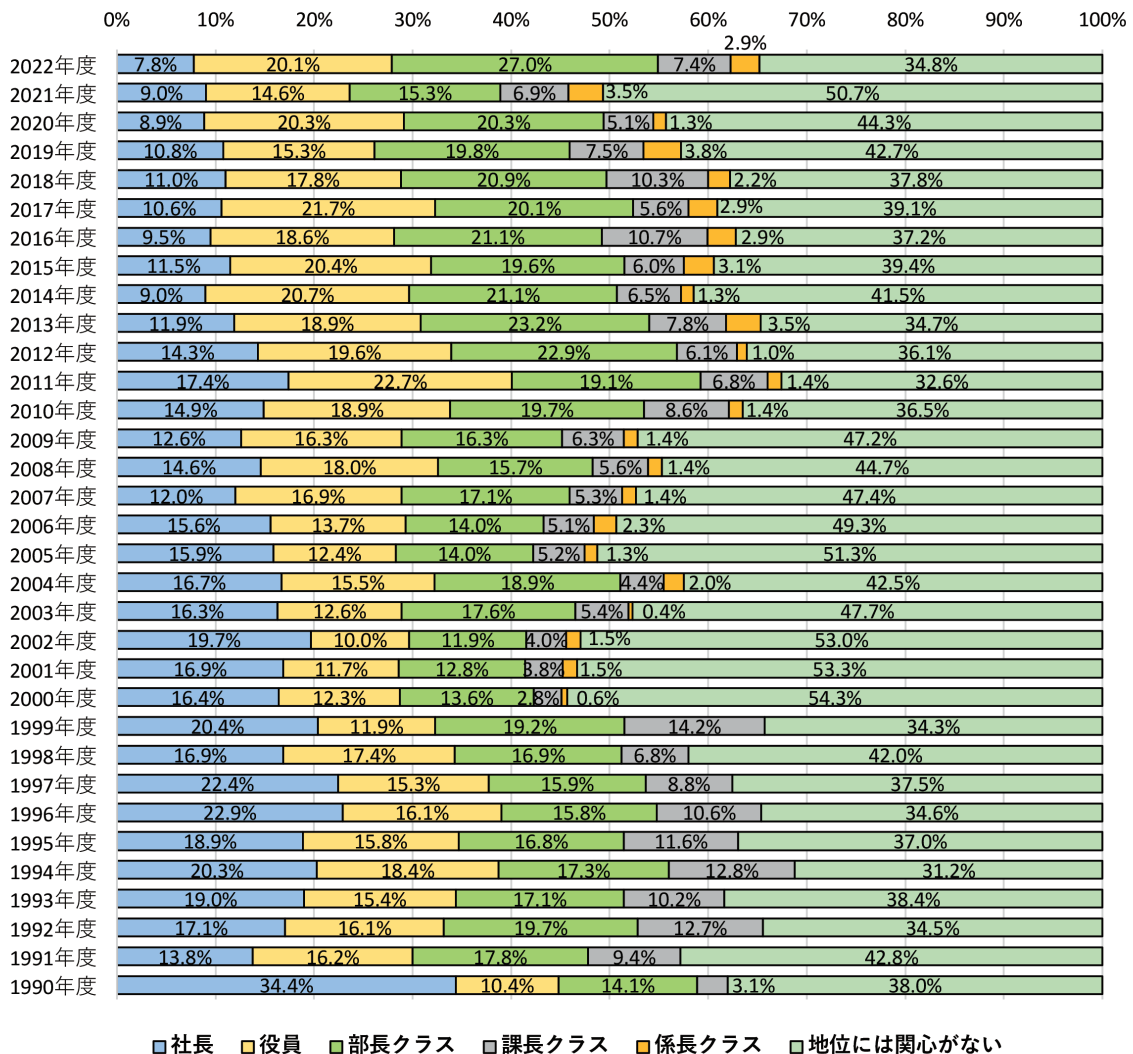
問 17

あなたが最終的に目標とする役職・地位は？(1つ選択)

(n=244)



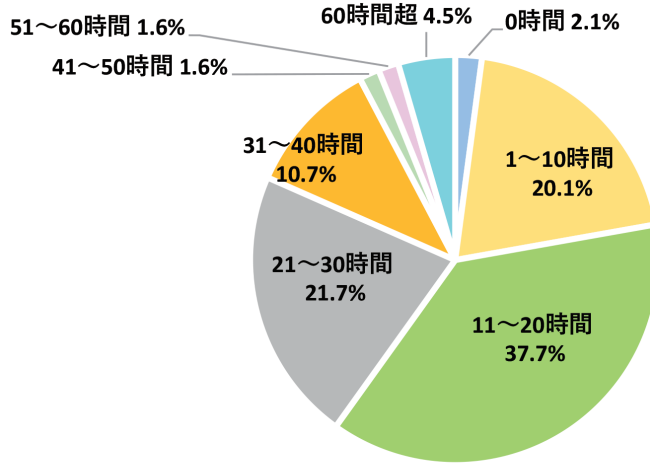
経年比較 (1990~2022年度) ※2000年度から選択肢に「係長クラス」を追加



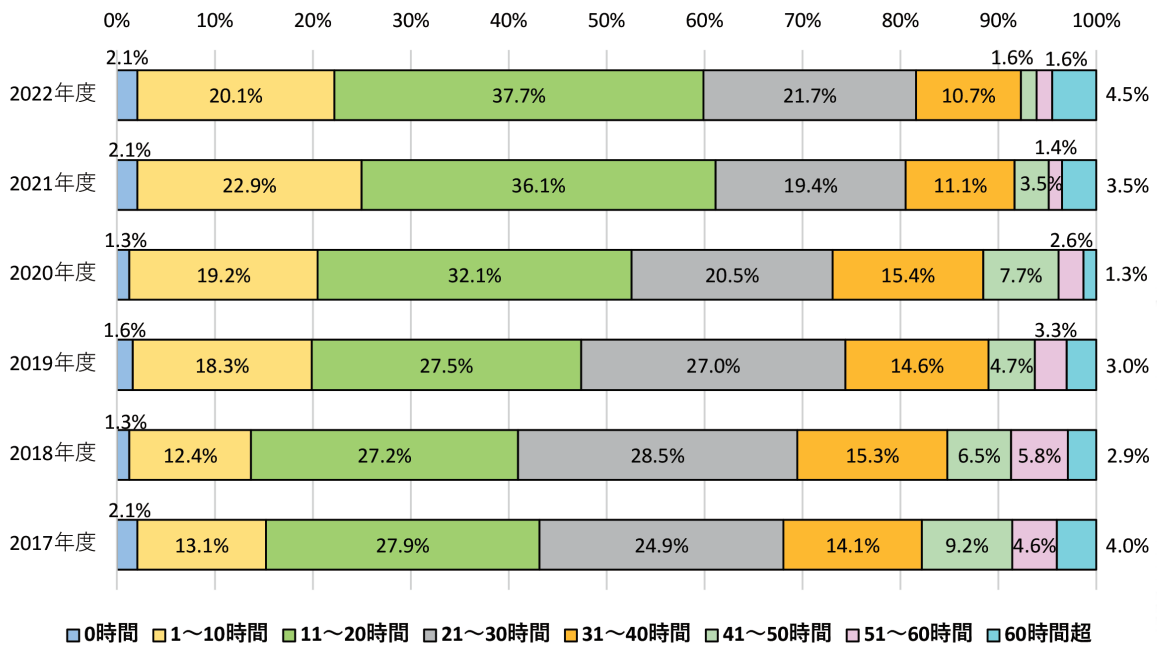
問 18

1か月の残業時間について、あなたは何時間程度なら許容できますか？
(1つ選択)

(n=244)



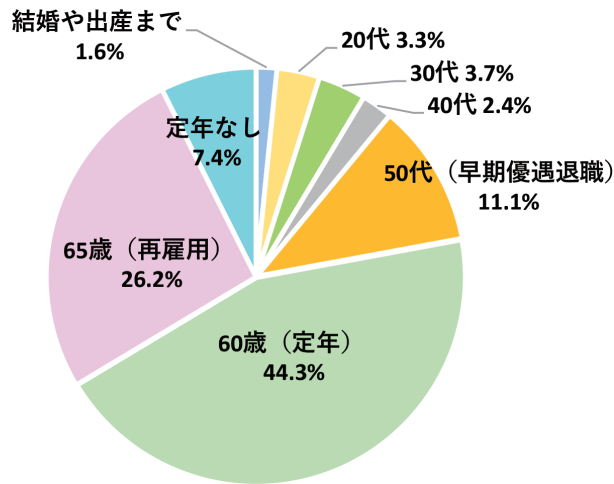
経年比較 (2017~2022年度)



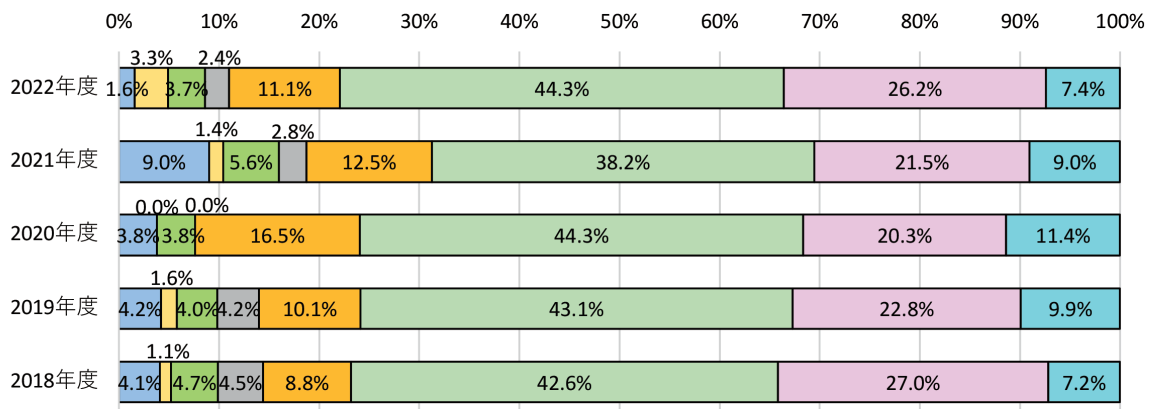
問19

“人生100年時代”と言われている中で、あなたはいつまで被雇用者（会社勤めなど）として働きたいと思いますか？（1つ選択）

(n=244)



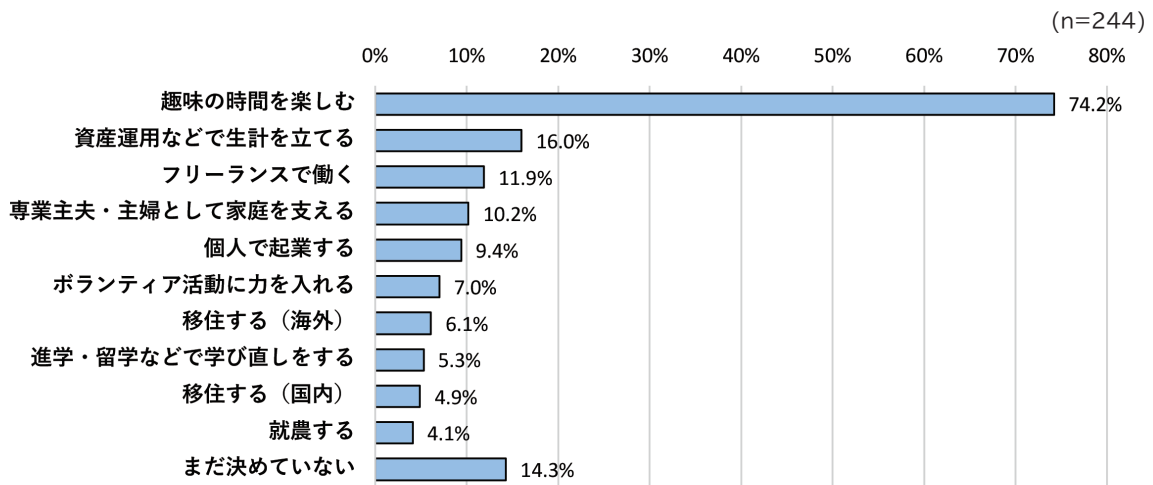
経年比較（2018～2022年度）



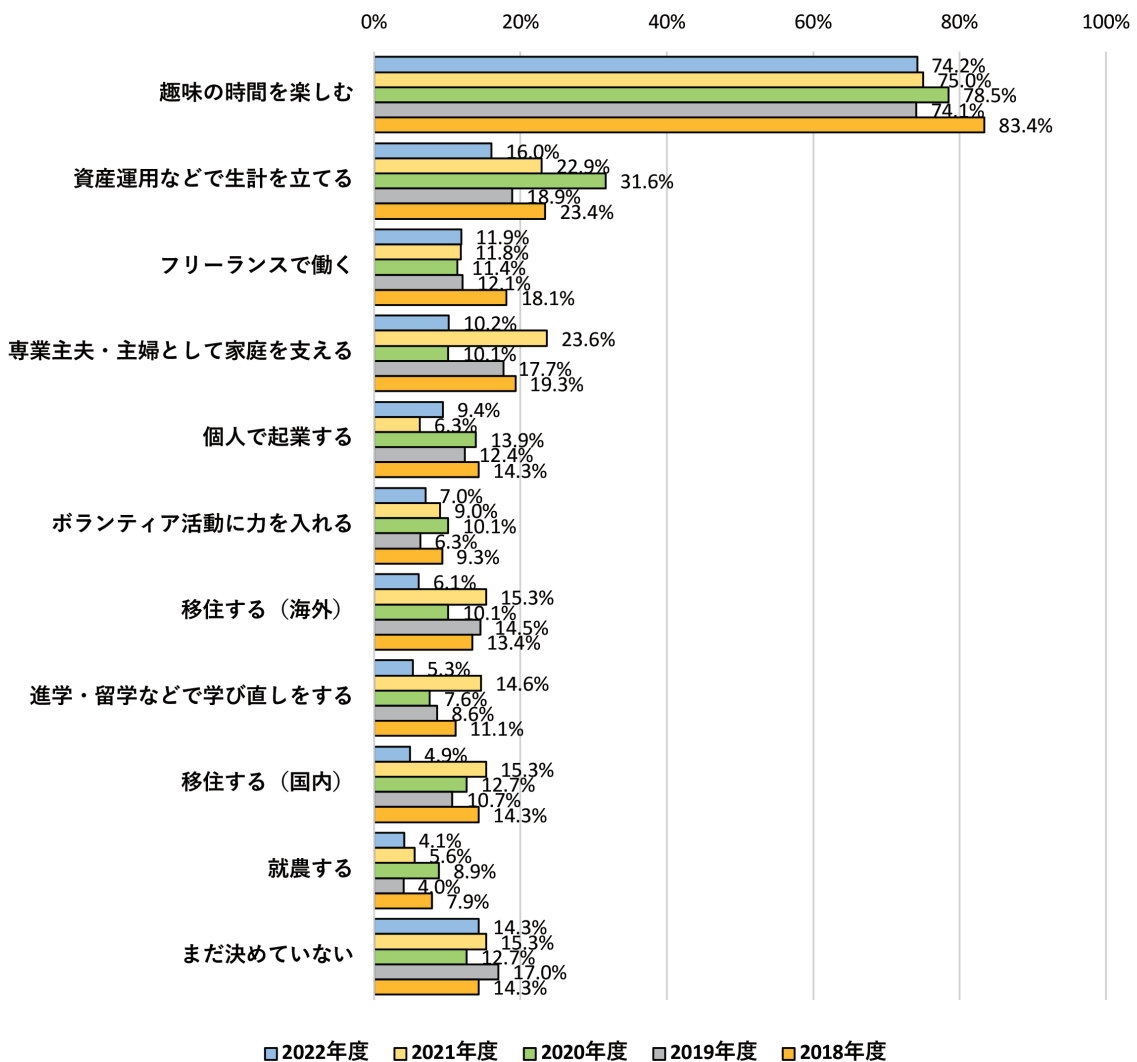
■結婚や出産まで ■20代 ■30代 ■40代 ■50代（早期優遇退職） ■60歳（定年） ■65歳（再雇用） ■定年なし

問 20

前問の年代で退職した後にやりたいことを選びください。
(5つまで選択可)



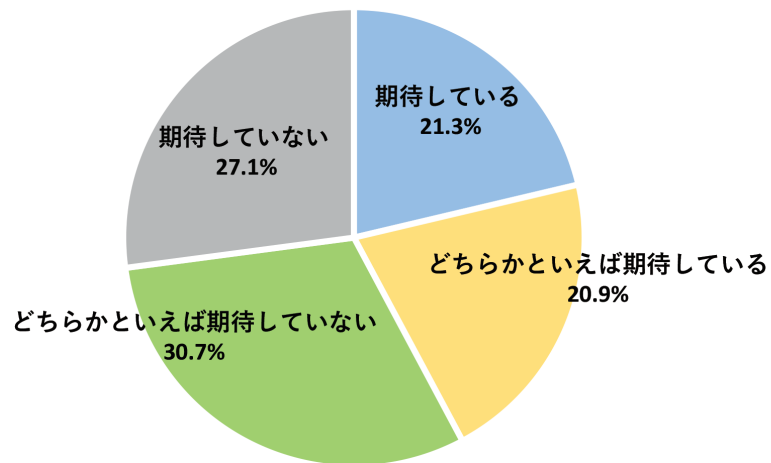
経年比較 (2018~2022年度)



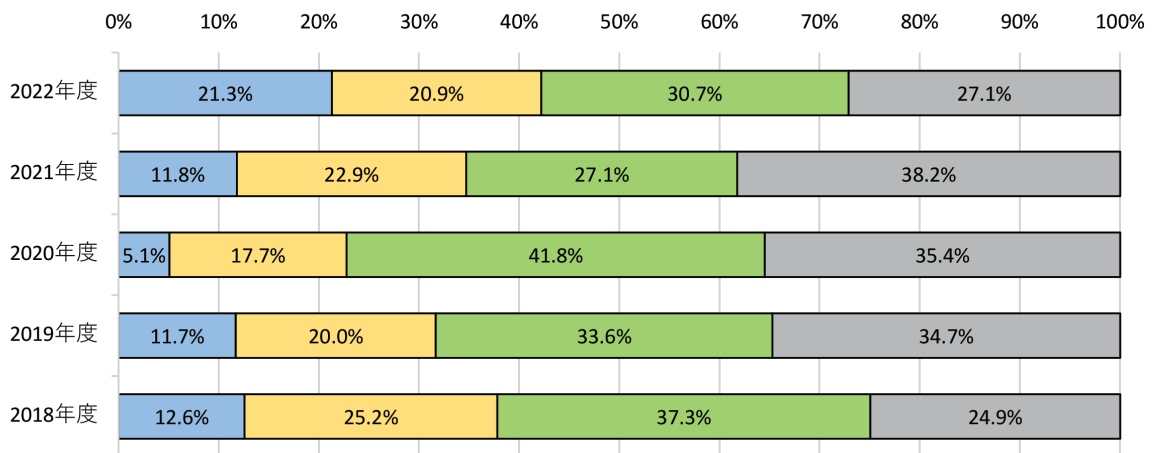
問 21

将来支給される公的年金（国民年金・厚生年金等）を老後の収入として期待していますか？（1つ選択）

(n=244)



経年比較（2018～2022年度）

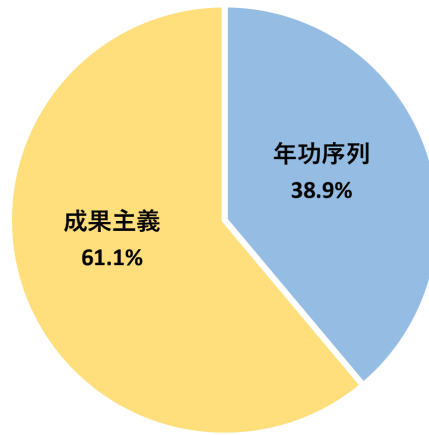


□期待している □どちらかといえば期待している □どちらかといえば期待していない □期待していない

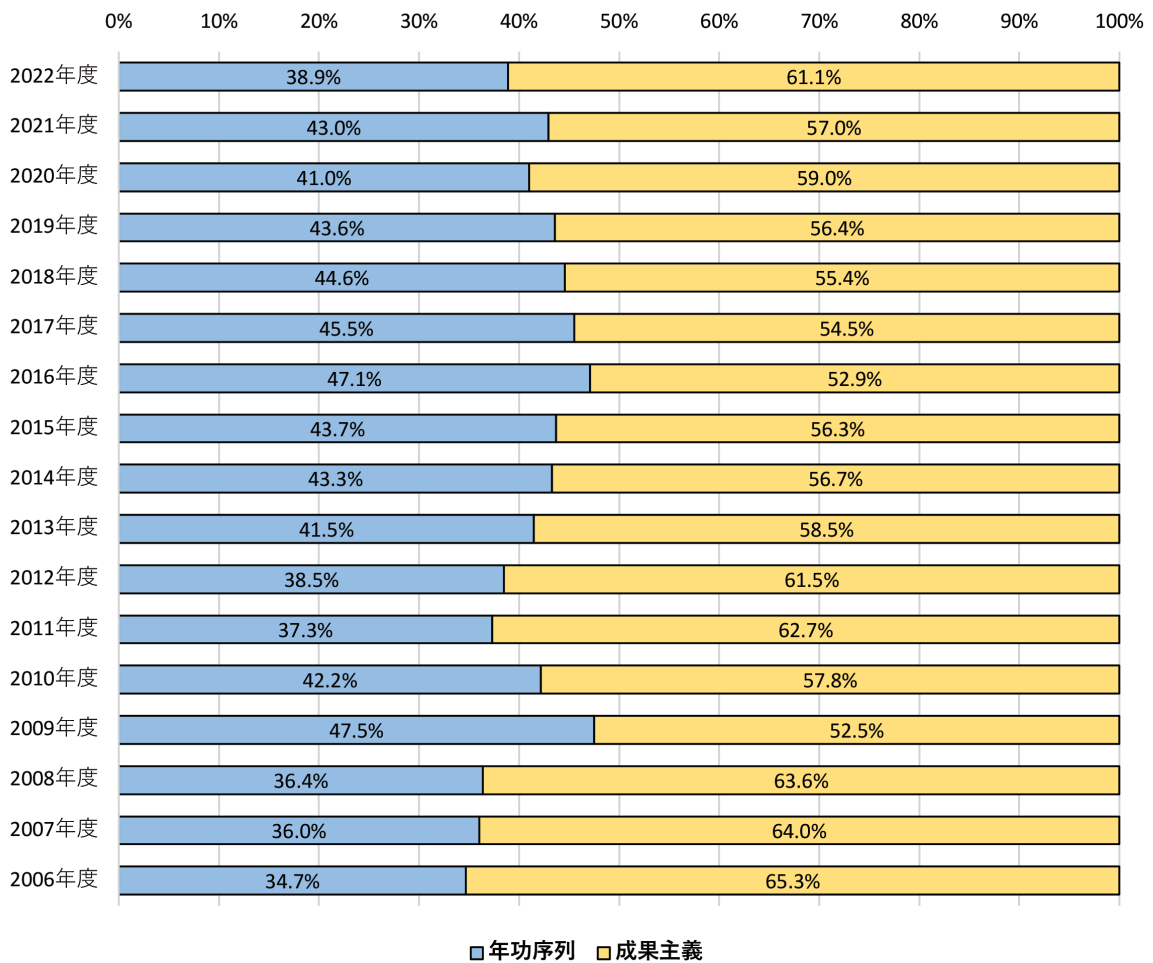
問 22

年齢や在籍年数に応じて昇進や待遇が決まる年功序列的な人事制度と、業績に応じて決まる成果主義的に人事制度ではどちらを望みますか？(1つ選択)

(n=244)



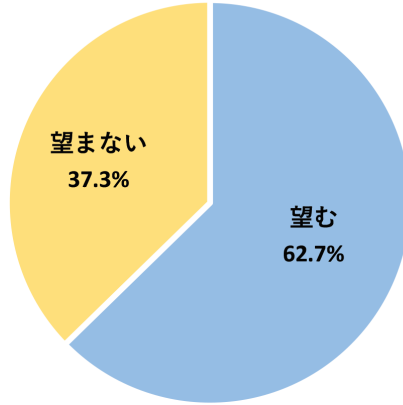
経年比較 (2006~2022年度)



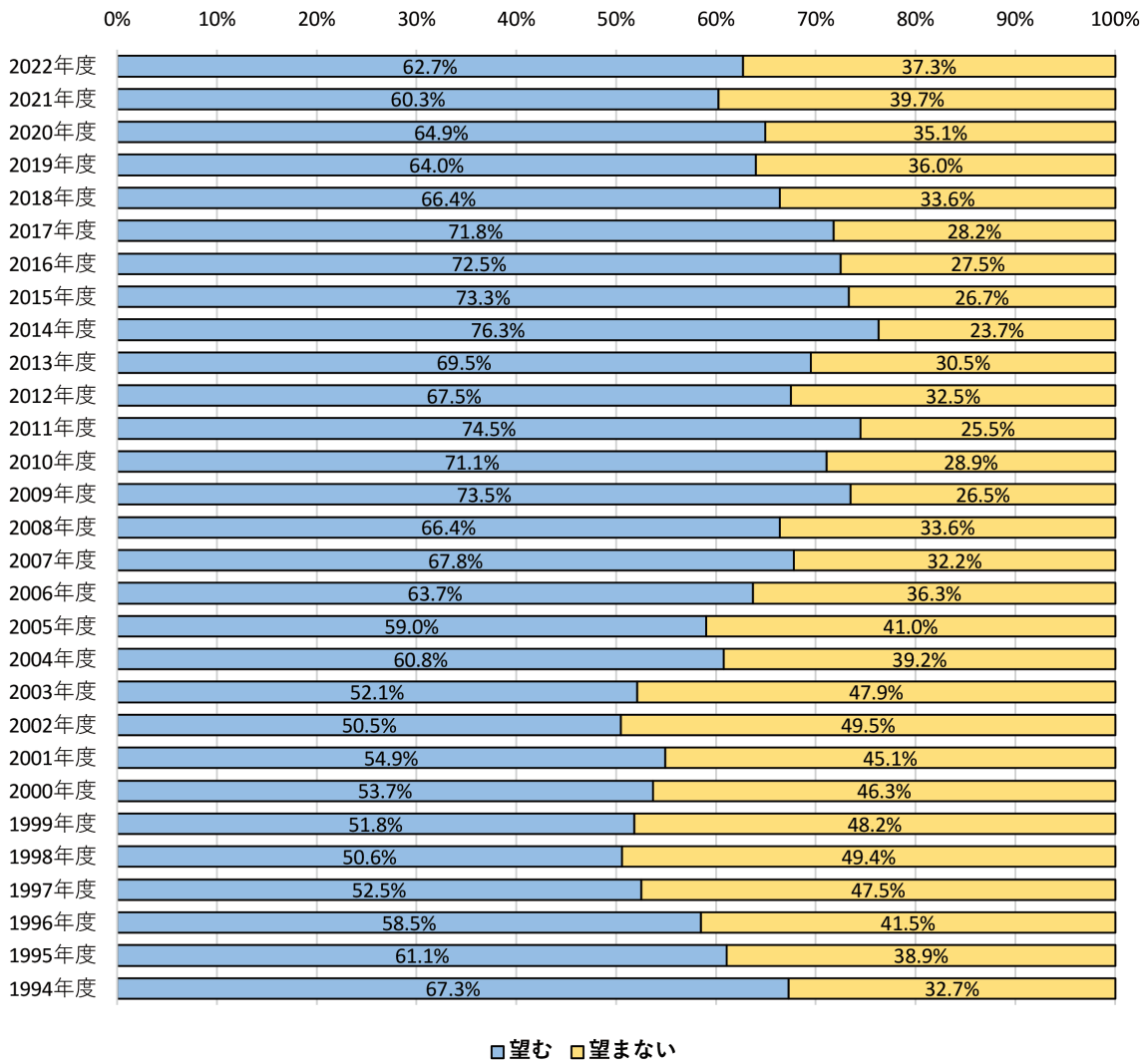
問 23

“終身雇用制度”を望みますか？(1つ選択)

(n=244)



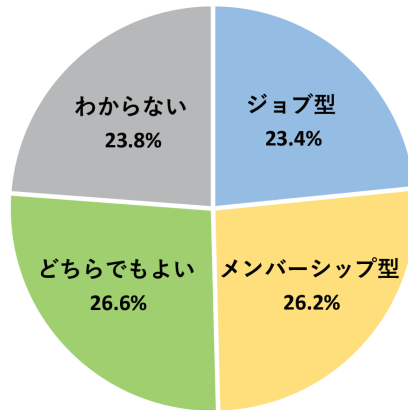
経年比較 (1994~2022年度)



問 24

ジョブ型雇用制度とメンバーシップ型雇用制度ではどちらを望みますか？
(1つ選択)

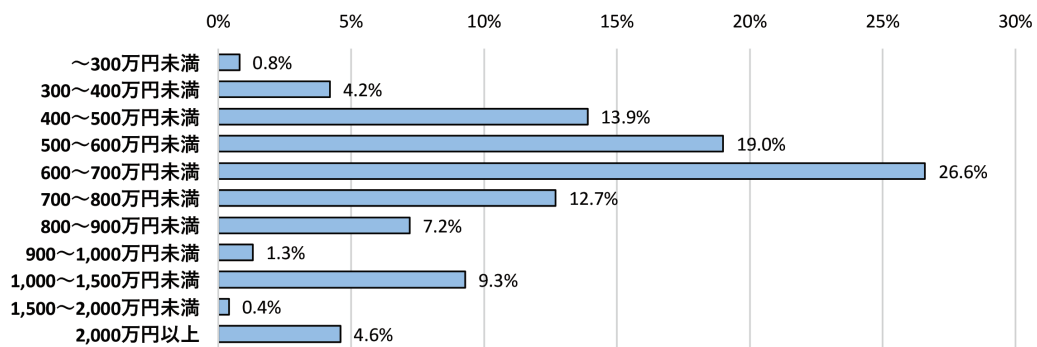
(n=244)



問 25

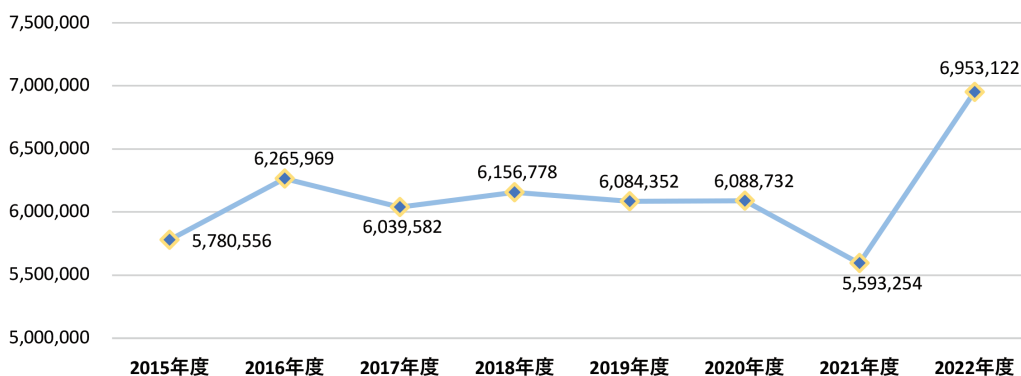
35歳の時点でのあなたの理想の年収額はどのくらいですか？
(自由記述)

(n=237)



加重平均値 6,953,122円 / 対昨年度比: +1,359,868円

経年比較 (2015～2022年度)



2022年度(第33回)新入社員の
会社生活調査

2022年7月

学校法人産業能率大学

〒158-8630 東京都世田谷区等々力6-39-15

TEL:03-5758-5117

(総合研究所 マーケティングセンター)